

○ 配付資料一覧表

木曽三川ふれあいセミナー 式次第

木曽三川ふれあいセミナーの進め方のルール

資料－1 「新丸山ダム建設事業」

資料－2 「木曽川水系連絡導水路事業」

資料－3 「河川外来種対策について」

資料－4 「長良川 樹木伐開について」

ご意見用紙

木 曾 三 川 ふ れ あ い セ ミ ナ ー

式 次 第

日時:平成20年6月1日 10:30～12:00

場所:岐阜市消防本部6F 大会議室

1. 開 会

2. セミナー

1) 木曾川水系河川整備計画の策定及び大規模な事業等の動向について

①木曾川水系河川整備計画の策定

②大規模な事業等の動向

- ・新丸山ダム建設事業
- ・木曾川水系連絡導水路事業

2) 川づくりに関する意見交換

①河川外来種対策

②長良川の樹木伐開

③川づくり全般

3. 閉 会

ふれあいセミナーの進め方のルール

多くの参加者の皆様からご意見を伺うため、スムーズな進行にご協力をお願いします。

- ご意見のある方は挙手をして頂き、指名されてからご発言願います。
- 多くの参加者の皆様に発言して頂くため、ご意見は簡潔に発言願います。
- 特定個人に対する誹謗・中傷はしないようにお願いします。
- 他の参加者のご意見への批判、賛否の表明、拍手などはご遠慮願います。
- セミナー中の立ち歩きや会場への出入りは極力ご遠慮願います。
- 携帯電話は、電源をお切り頂くかマナーモードにして頂くようお願いします。
- 個人的な写真撮影や録音はご遠慮願います。
- その他、進行の妨げとなるようなことはご遠慮願います。

これらのことにご協力頂けない場合には、ご退席して頂くことがありますので宜しくお願いします。

新丸山ダム建設事業

事業の目的

- 新丸山ダム建設の目的は以下の3つ。

①洪水調節

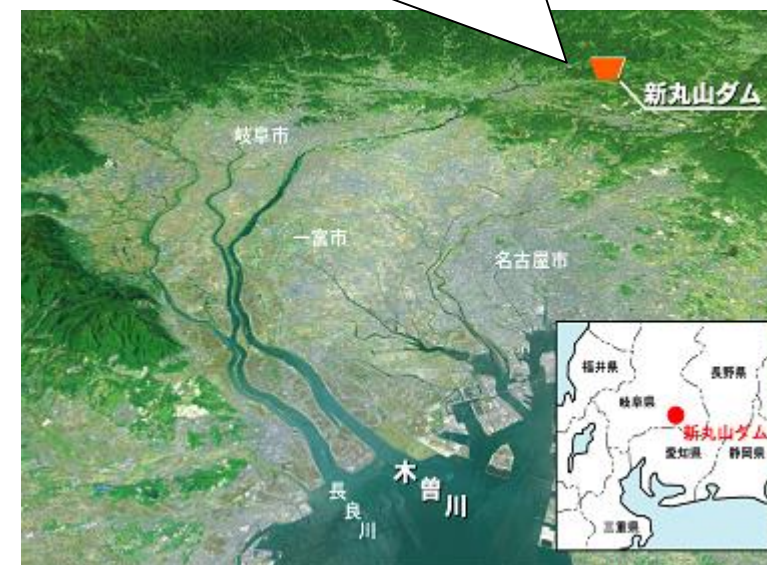
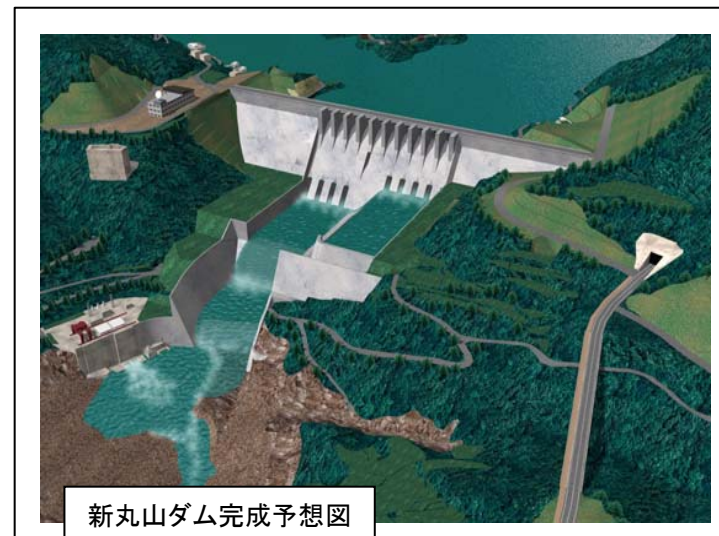
ダム地点の計画高水流量毎秒6,800m³のうち、毎秒2,100m³の洪水調節を行う。

②既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流水の確保

木曽川沿川の既得取水の安定化及び河川環境の保全等のために必要な流水としての容量1,500万m³を確保する。

③発電

関西電力株式会社の既設丸山・新丸山発電所において、新たな1,500万m³の貯水容量の確保により最大出力22,500kwを増電させ、最大出力210,500kwの発電を行う。



事業の経緯

・新丸山ダム建設の経緯



補償基準妥結調印式 (H4. 3)



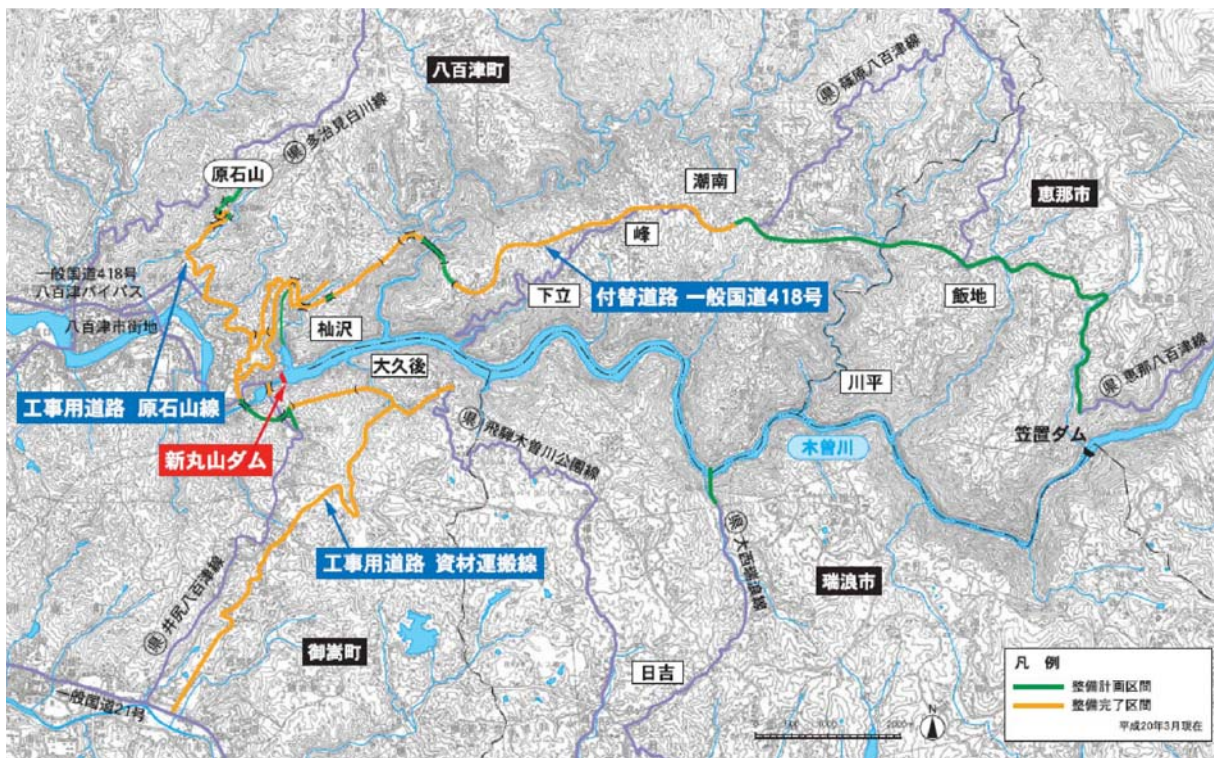
新旅足橋下部工完成 (H19. 2)

1956	昭和31年3月	丸山ダム完成
1980	昭和55年4月	実施計画調査着手
1983	昭和58年9月	台風10号による大災害（美濃加茂市等災害）
1986	昭和61年4月	建設事業着手
1990	平成2年5月	新丸山ダム基本計画決定
1992	平成4年3月	新丸山ダム補償基準妥結調印式
1992	平成4年8月	水没地用地買収に着手
1994	平成6年1月	水源地域整備計画決定
2000	平成12年12月	家屋移転補償契約が49戸全て完了
2003	平成15年7月	中部地方整備局事業評価監視委員会にて事業の継続が了承される
2005	平成17年6月	新丸山ダム基本計画変更（第1回）告示
2007	平成19年3月	付替国道418号新旅足橋上部工工事着手
2008	平成20年3月	工事用道路資材運搬線完成
2008	平成20年3月	木曽川水系河川整備計画策定

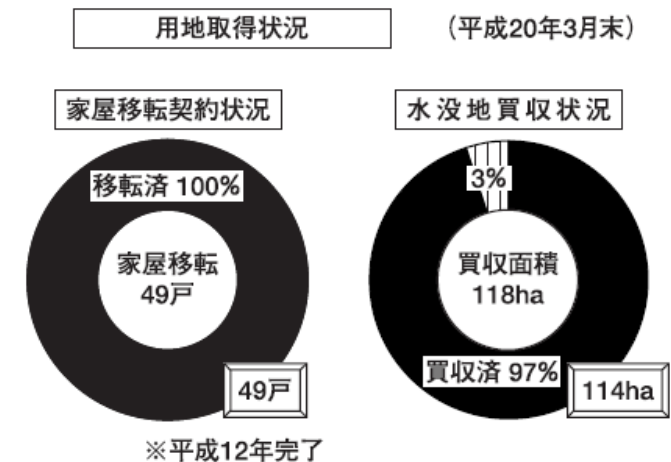
事業の進捗状況

- 新丸山ダム建設に伴う用地補償は、新たに貯水池となる用地の約97%を取得済み。家屋移転補償は全て完了。
- ダム本体工事の準備工である付替国道418号線は約52%、資材運搬線は約93%、原石山線は約84%の進捗率。

■主要道路の整備状況



■進捗率



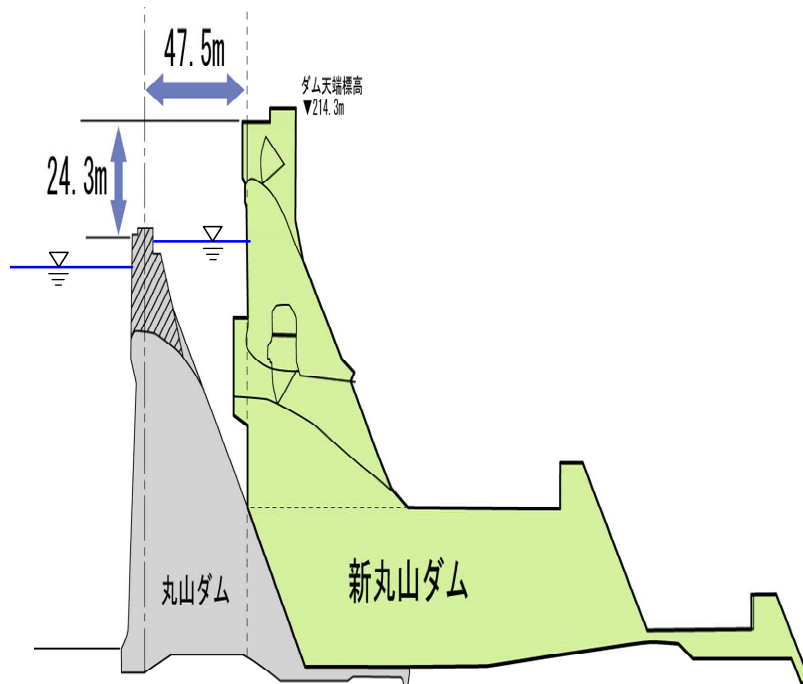
主な道路工事の整備状況

付替道路	一般国道418号	約52%
工事用道路	資材運搬線	約93%
	原石山線	約84%

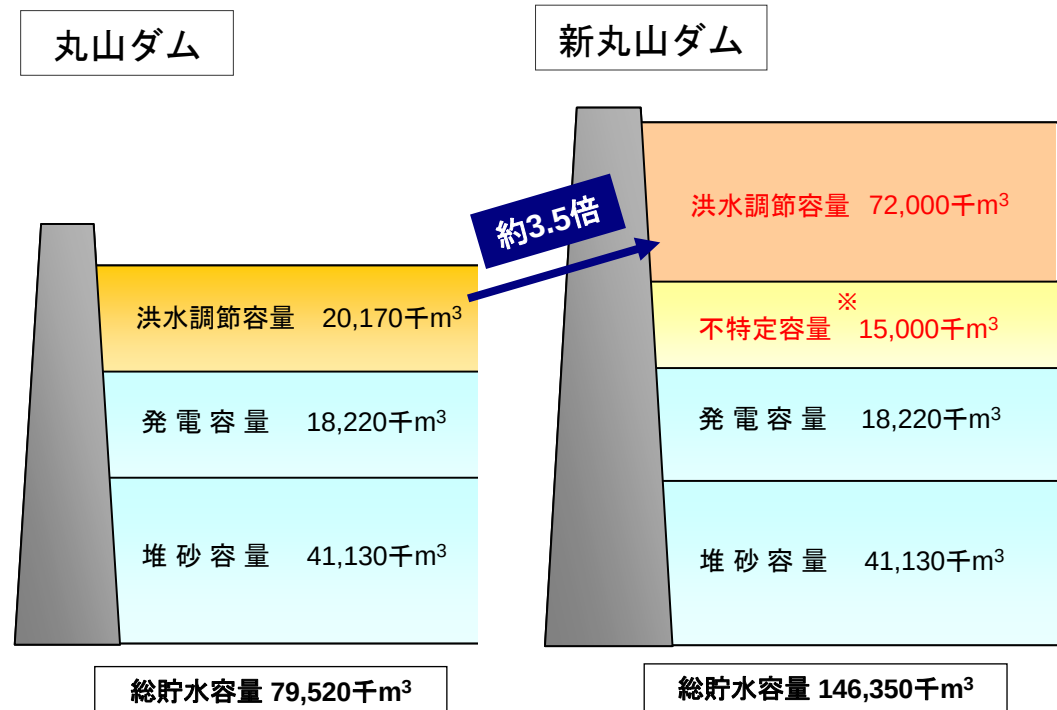
新丸山ダム案

- 新丸山ダムは、既設丸山ダムの下流47.5mの位置に、24.3m嵩上げして建設し、新たに6,683万m³の容量を確保。

■ダム標準断面図



■貯水容量配分図

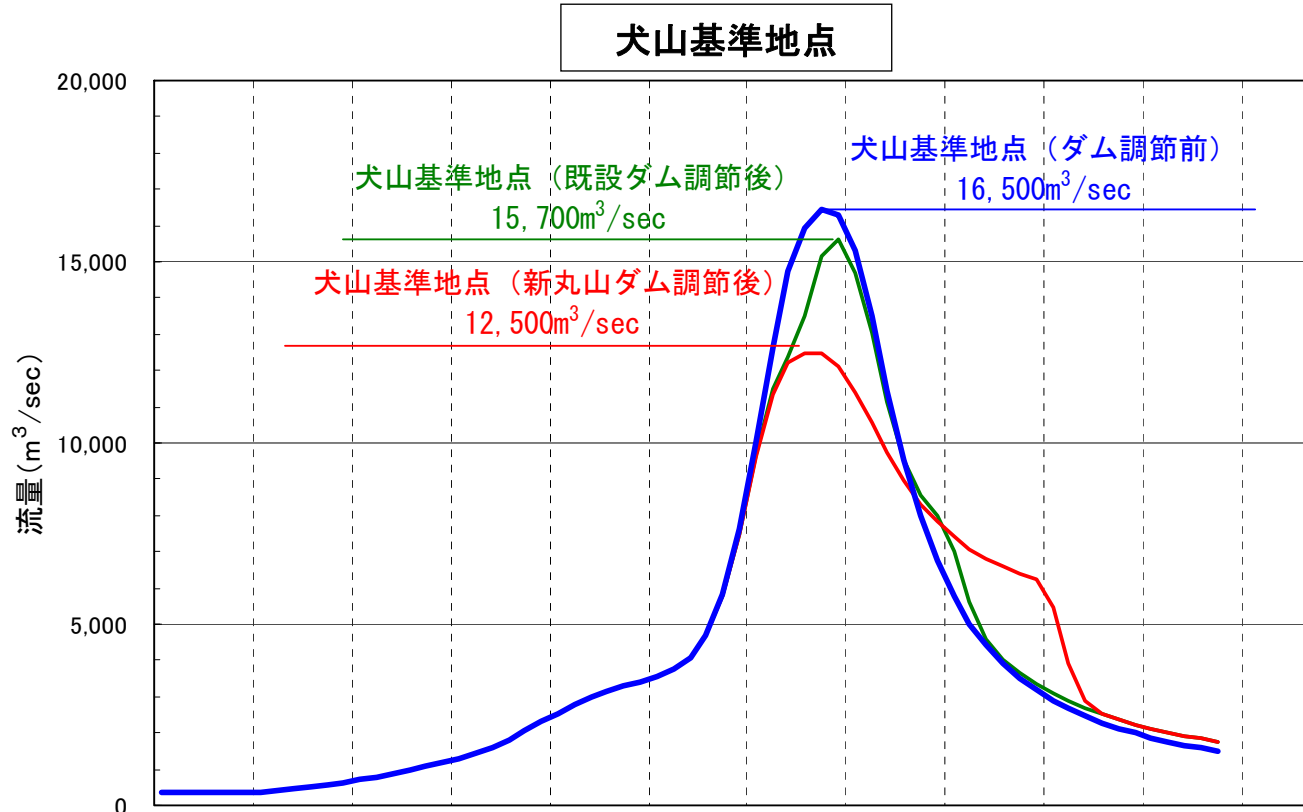


※ 不特定容量…既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流水の確保のための容量

河川整備計画の洪水調節計画

- 新丸山ダム建設と河道の整備により、河川整備計画の目標である昭和58年9月洪水を安全に流下させる。

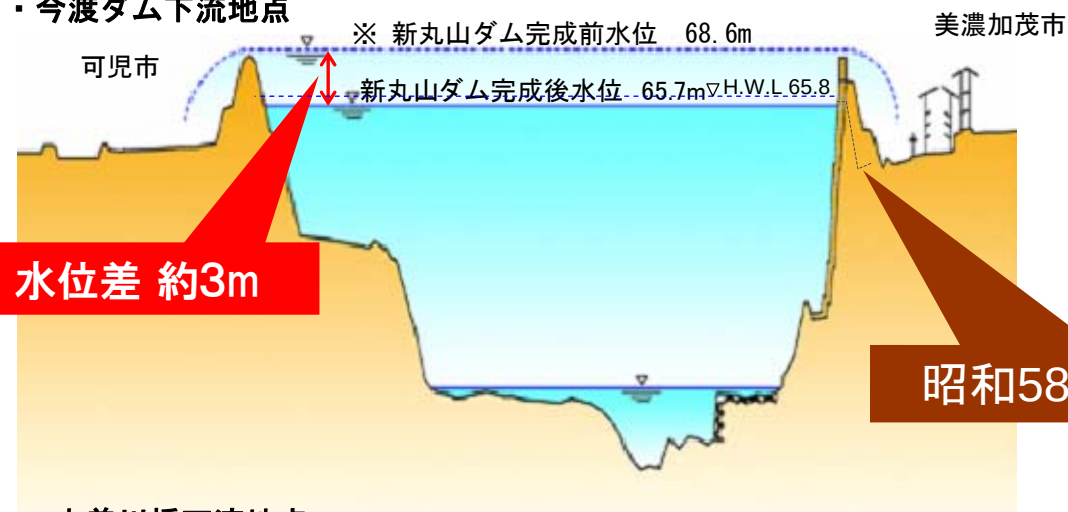
河川整備計画目標流量				
基準地点	対象洪水	ダム調節前ピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
犬山	昭和58年9月洪水	16,500m ³ /sec	4,000 m ³ /sec	12,500m ³ /sec



河川整備計画に対する治水上の効果

- 新丸山ダムの洪水調節効果(試算)は、美濃加茂市の今渡ダム下流地点で約3m、一宮市の木曽川橋下流地点で約1.5mの水位低下効果。

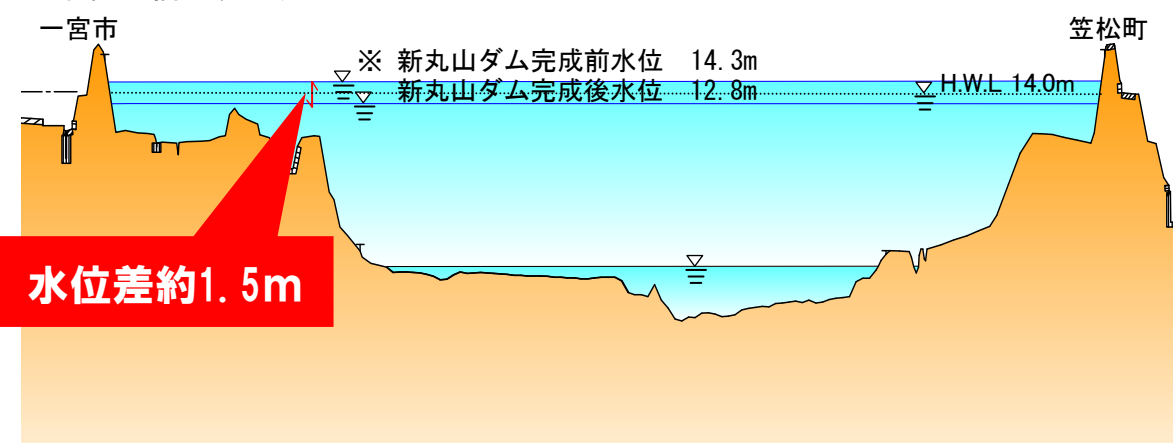
・今渡ダム下流地点



※ 新丸山ダム完成前水位68.6mは、木曽川の既存ダム（岩屋、阿木川、味噌川、丸山ダム）の洪水調節後の水位

対象洪水: 昭和58年9月(実績規模)
検討断面: 67.0k、平成14年度測量横断

・木曽川橋下流地点



※ 新丸山ダム完成前水位14.3mは、木曽川の既存ダム（岩屋、阿木川、味噌川、丸山ダム）の洪水調節後の水位

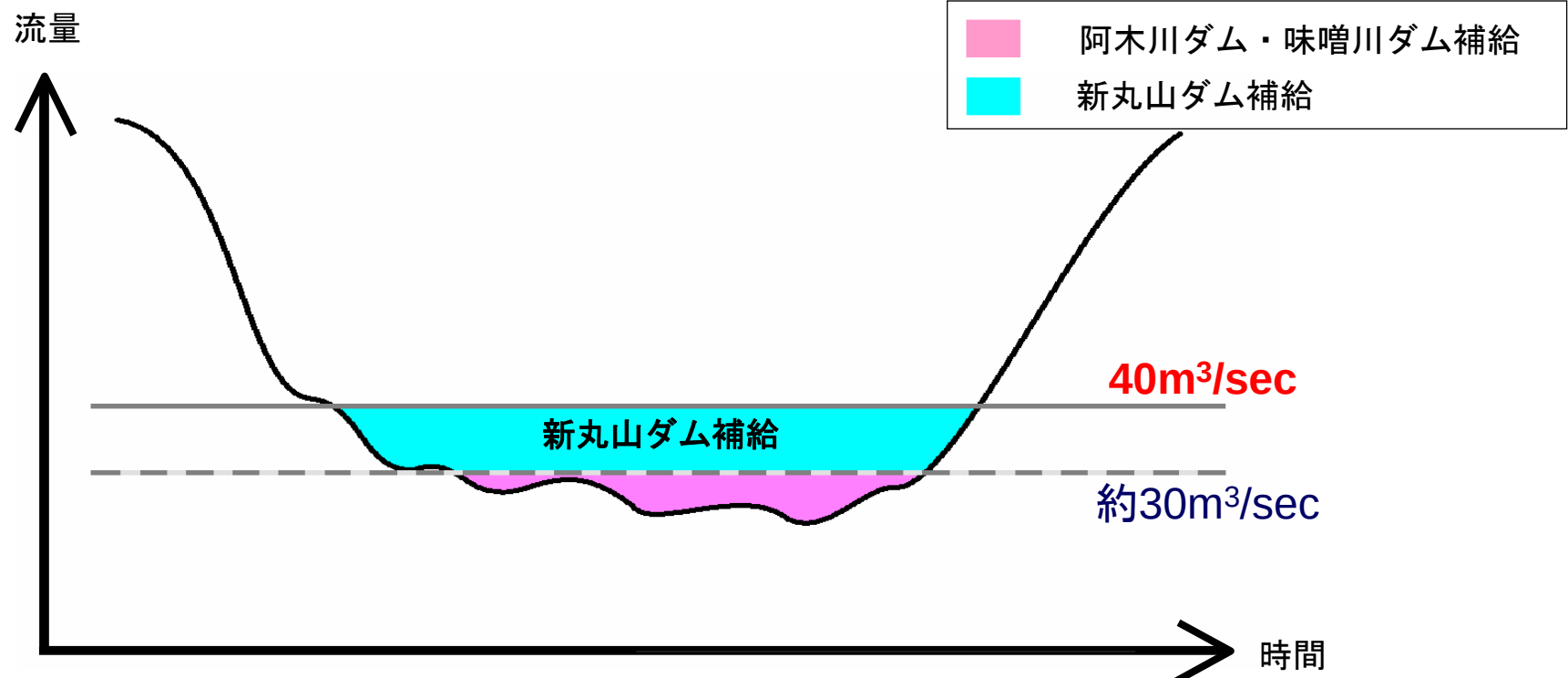
対象洪水: 昭和58年9月(実績規模)
検討断面: 39.6k、平成14年度測量横断

不特定補給計画

- 新丸山ダム建設により、1,500万 m^3 の不特定容量を確保し、1/10規模の渇水時においても、既設阿木川ダム及び味噌川ダムの不特定補給と合わせて既得取水の安定化を図り、木曽成戸地点において河川環境の保全のために必要な流量の一部である $40\text{m}^3/\text{sec}$ を確保。

既設の阿木川ダム・味噌川ダムにより、木曽成戸地点で約 $30\text{m}^3/\text{sec}$ の流量を確保

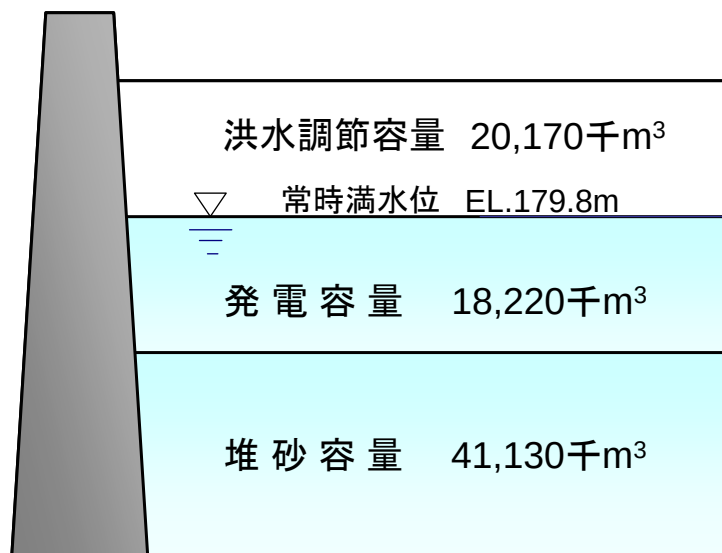
さらに新丸山ダムにより、 $40\text{m}^3/\text{sec}$ までの流量を確保



発 電

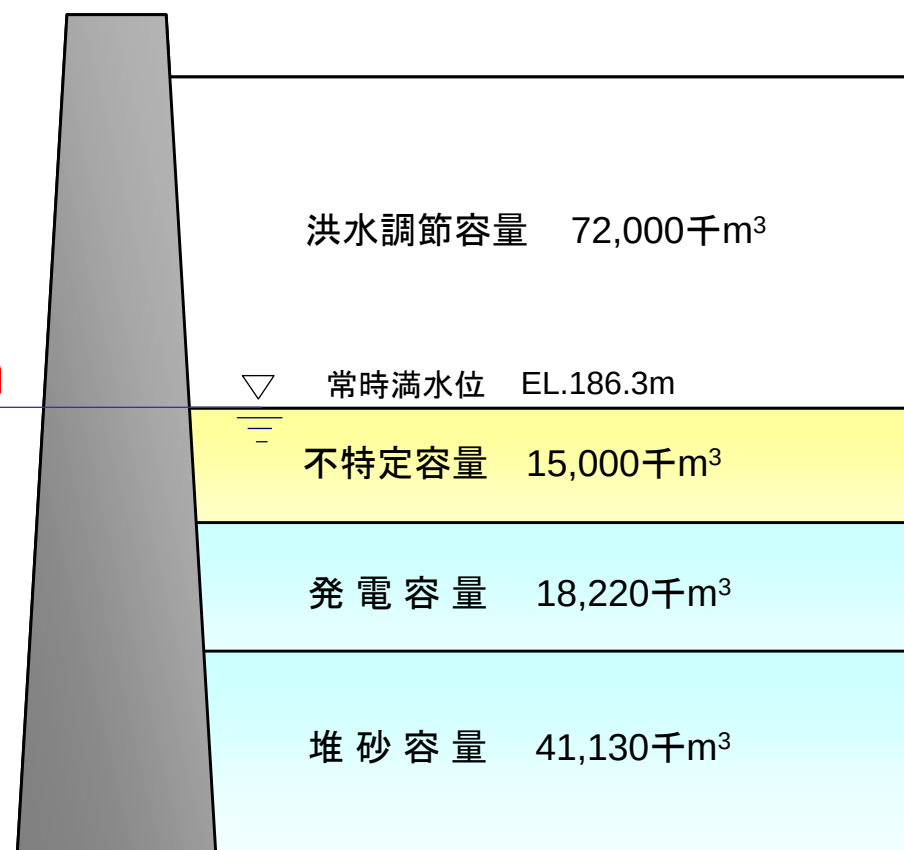
- 新丸山ダム建設により生ずる発電落差の増、最大6.5mを利用して、最大出力22,500kwの発生電力量を増強。

丸山ダム



新丸山ダム

6.5m



木曽川水系連絡導水路について

木曽川水系連絡導水路事業の計画概要

事業の目的

(1) 流水の正常な機能の維持(異常渇水時^{*}の緊急水の補給)

環境

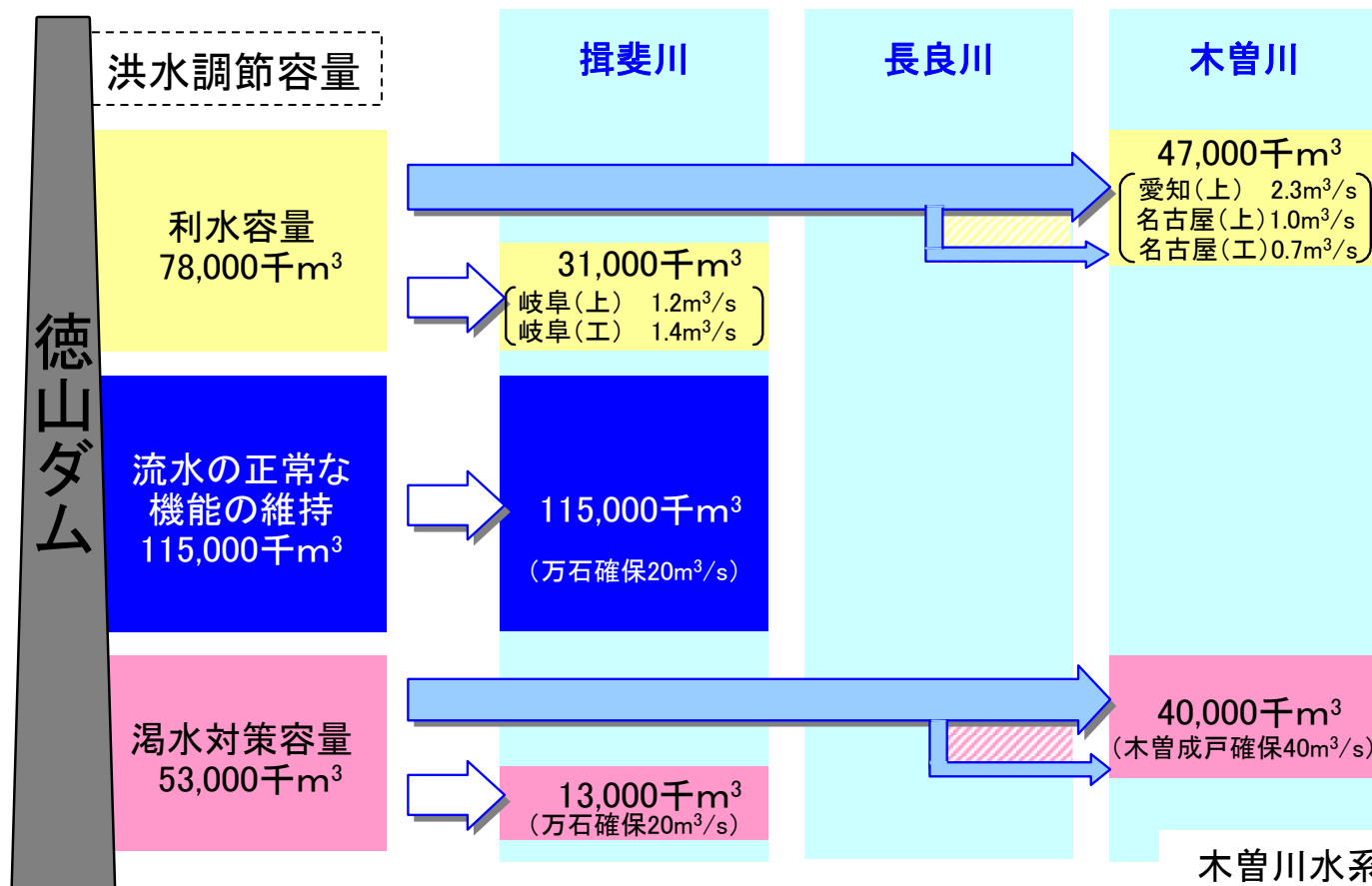
木曽川水系の異常渇水時^{*}において、徳山ダムに確保された渇水対策容量の内の4,000万 m^3 の水を木曽川及び長良川に導水することにより、木曽成戸地点で約40 m^3/s を確保し、河川環境の改善を行う。

(2) 水道用水及び工業用水の供給

利水

徳山ダムで開発した愛知県及び名古屋市の都市用水を最大4 m^3/s 導水することにより、木曽川で取水できるようにする。

^{*} 異常渇水時 … 10年に1回程度発生する規模の渇水より厳しい渇水。具体的には各ダムに確保された流水の正常な機能の維持のための水が無くなってしまう時。



木曽川水系連絡導水路事業の計画概要

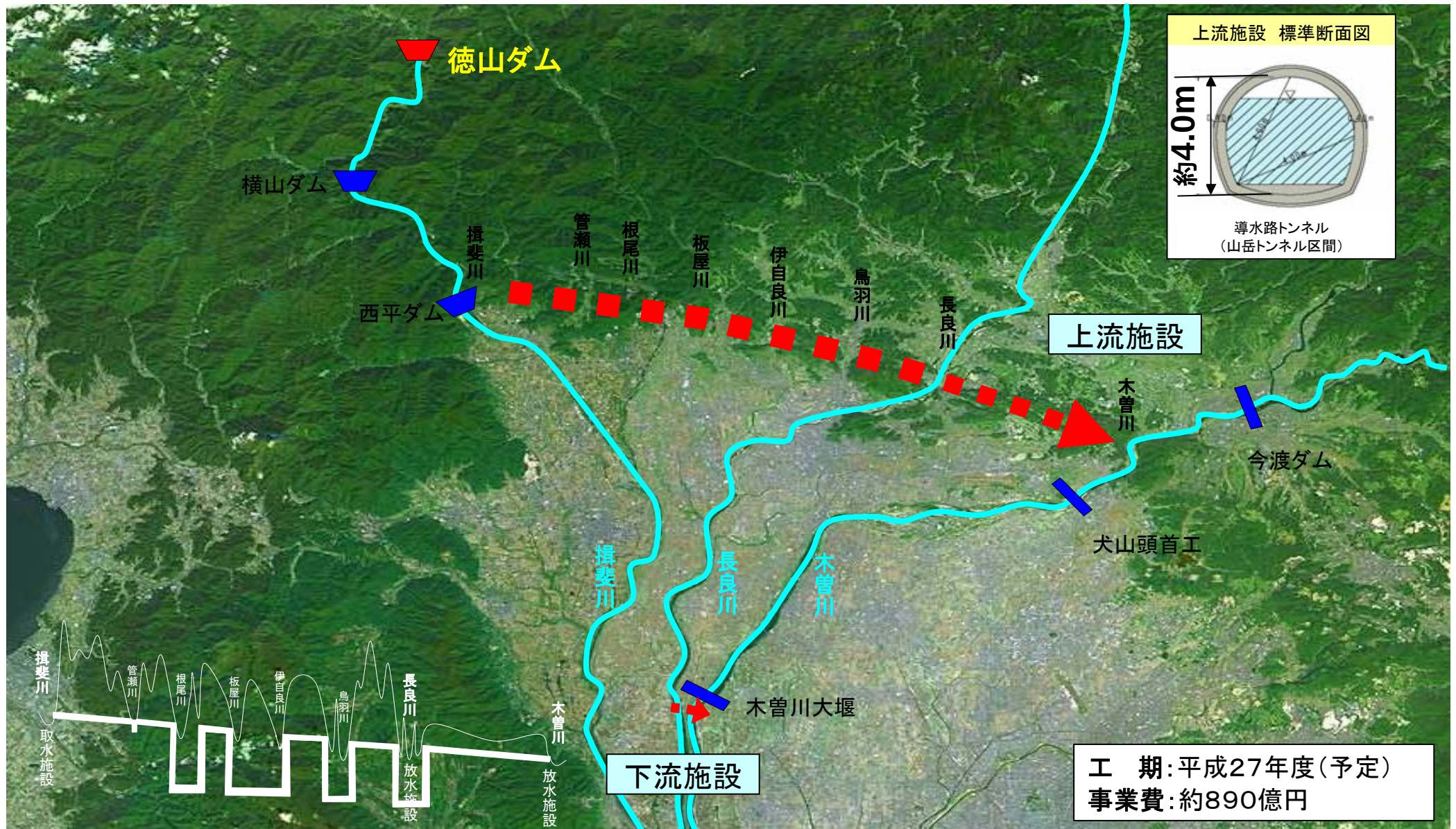
導水路のルート

導水路は、地形・地質上の制約、経済性、河川流況改善区間延長及び利水供給可能区域等から、揖斐川西平ダム付近から木曽川坂祝地区に導水することを基本とする。

また、長良川中流部の河川環境の改善及び事業費の軽減を図るため木曽川への導水の一部を長良川を経由するものとする。



木曽川水系連絡導水路のルート



渇水が頻発する木曽川

木曽川に係る用水では、平成になって以降19回の取水制限(節水)を実施している

渇水 発生 年度	取水制限期間												最高取水制限率 (%)		
	期間											日数			
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		上水	工水	農水
H2												32	10	20	20
H4												51	10	20	20
H5												27	15	20	20
H6												166	35	65	65
H7												213	25	50	50
H8												29	20	20	20
H9												7	5	10	10
H11												9	5	10	10
H12												78	25	50	65
H13												143	20	40	40
H14												75	20	40	40
H16												33	15	30	30
H17												176	25	45	50

：実際の取水制限実施期間

H6渇水被害(市民生活・社会経済活動への影響及び地盤沈下)

上水、工水への影響

平成6年の地盤沈下概況



平成6年8月12日読売新聞

給水制限

水防衛も限界

企業は軒並み操短 景気に影響も

消防ヘリ「水がない」

3か所目やっとなった



湘南で山火事

15日にも19時間断水

愛知・節水強化を想定

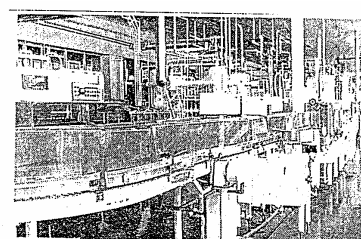


平成6年8月22日朝日新聞

工業用水を輸入

ベトナムから20日すぎ第一便

石神大のジャパンエナジーは初めて。知多製油所には二十日すぎに三万トンが第一便として到着する。不足した工業用水を確保するため、ベトナムが南



東海市の飲料水メーカー

水がない、コラ作れない
ボトルが洗えない
ライン動かせない
工場長「売れ行きは最高なのに」
工場長「売れ行きは最高なのに」
工場長「売れ行きは最高なのに」

四日市の製油所

ついに工業用水を輸入

韓国からタンカーで

日新聞 平成6年8月13日

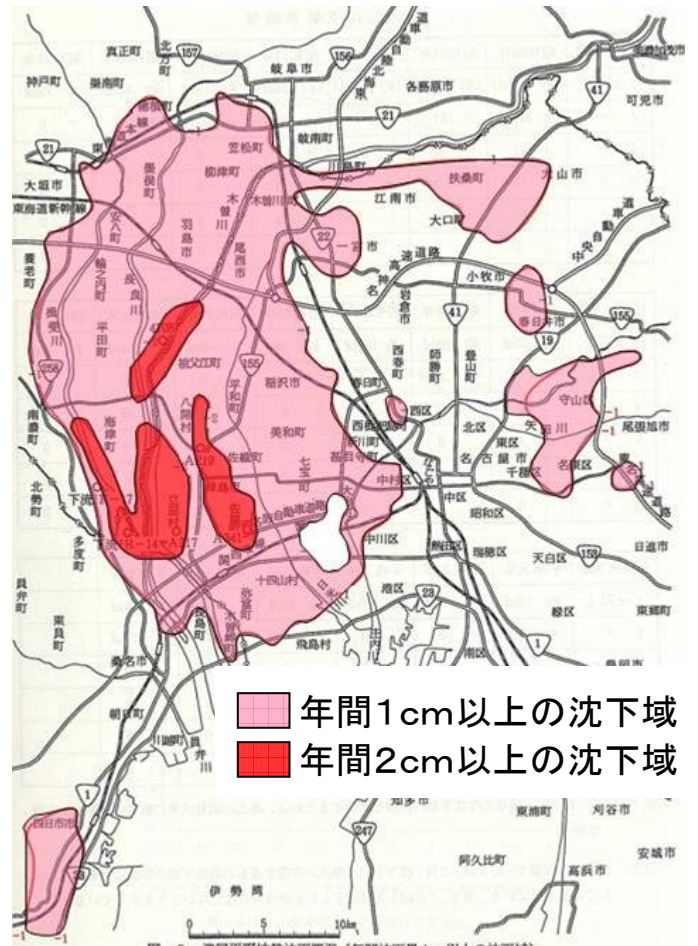


図-3 濃尾平野地盤沈下概況(年間沈下量1cm以上の沈下域)

出典:平成6年における濃尾平野の地盤沈下の状況(平成7年8月・東海三県地盤沈下調査会)に中部地方整備局が着色加筆

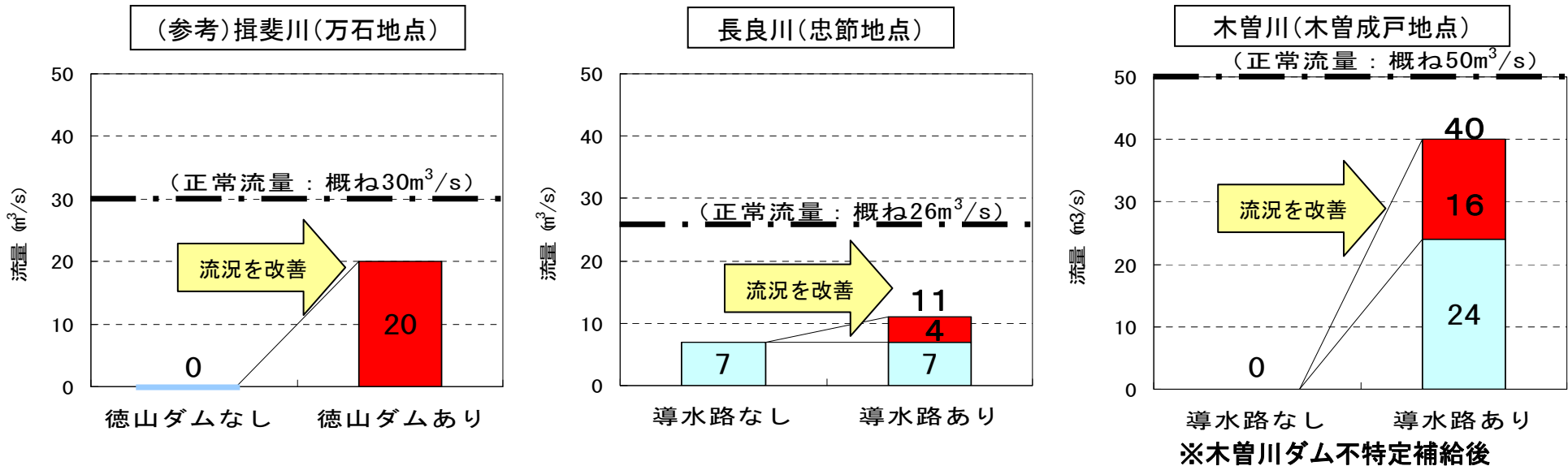
この記事は各新聞社の許諾を得て転載しています。

木曽川水系連絡導水路事業-6

河川環境の改善効果(異常渇水時)

【異常渇水時における流況の改善状況】

※平成6年規模の渇水を対象にシミュレーション



1. 瀬切れの防止

渇水対策容量に確保された緊急水を木曽川に16m³/s(その内、4m³/sは長良川経由)導水することにより、平成6年に木曽川で発生したような瀬切れを防止する。

2. 渇水による動植物の生息・生育環境への影響の改善

(1) アユ等

木曽川に導水することにより、中流部のアユ等の産卵場で必要と考えられる流量を確保する。

(2) ヤマトシジミ

平成6年に木曽川で発生したようなヤマトシジミの斃死等の現象が改善される。

3. 渇水による河川の水質悪化の改善

平成6年に木曽川及び長良川で発生したような水質悪化を改善する。

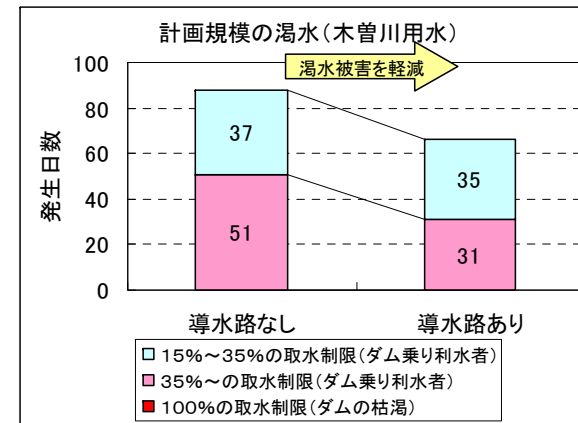
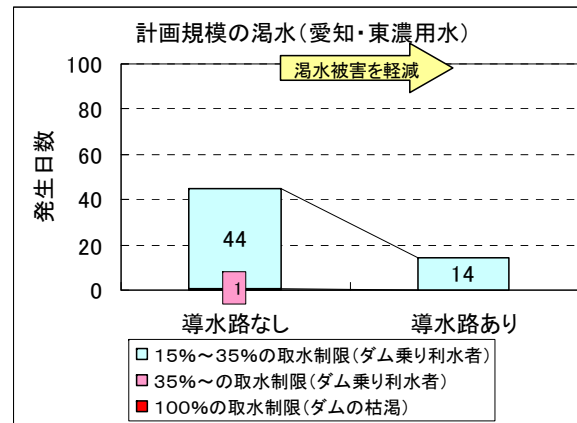
渇水被害(都市用水)の軽減効果

【渇水時における被害の軽減効果】

※昭和62年及び平成6年規模の渇水を対象にシミュレーション

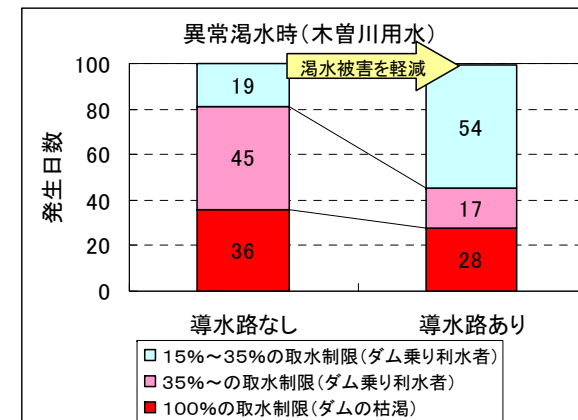
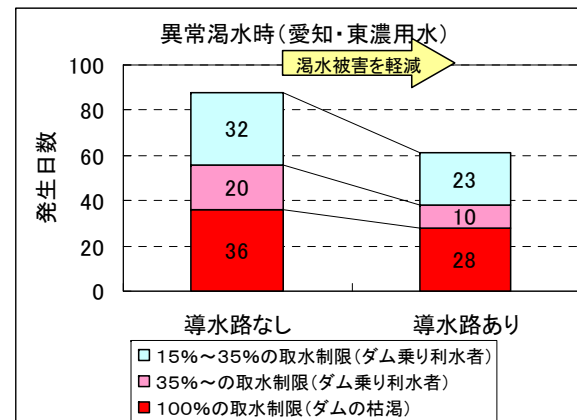
(1) 計画規模の渇水(近年の20年に2番目の渇水年(昭和62年))の場合

- 例えば木曽川用水に係る水道用水において断水を生じるおそれがある35%以上の取水制限が51日間から31日間へと軽減される。

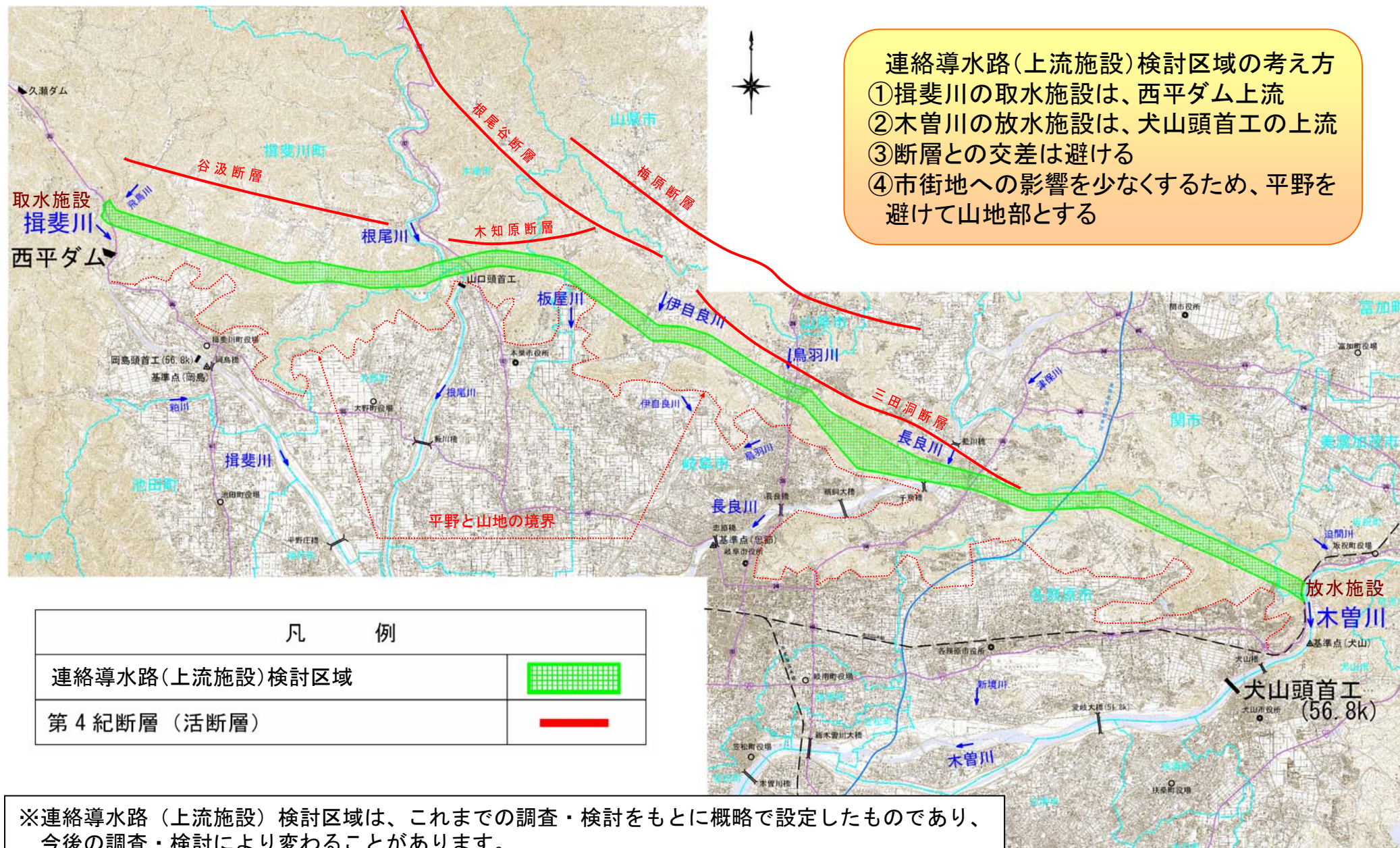


(2) 異常渇水(近年で最大の渇水年(平成6年))の場合

- 木曽川上流ダム群の枯渇日数が36日間から28日間へと軽減されるとともに、例えば木曽川用水に係る水道用水において断水を生じるおそれがある35%以上の取水制限日数及びダムの枯渇日数の合計が81日間から45日間へと短縮される。



連絡導水路(上流施設)検討区域の考え方



連絡導水路(下流施設)検討区域



木曽川水系連絡導水路事業における環境調査・影響検討の方針等

（方針）

木曽川水系連絡導水路事業を進めるにあたっては、地元から提出された意見も踏まえ、環境影響評価法に基づく環境影響評価と同等の技術レベル*の環境影響検討を行って参ります。

（体制等）

木曽川水系連絡導水路に関する環境調査は、環境検討会（H18.3 設立）における審議を踏まえて実施しているところではありますが、今後の環境影響検討に関しても、引き続き本検討会で審議をいただきながら実施して参りたいと思います。

なお、本検討会は公開で実施し、その検討結果等については原則として公表いたします。

（意見の聴取等）

環境影響検討の結果については、「環境レポート（仮称）」（案）をまとめ、関係する地域の方々や関係県知事からこれに対する意見を聴くこととし、提出された意見についての事業者の見解を合わせて「環境レポート（仮称）」を公表することとします。

なお、検討項目及び方法について、中間報告という形で公表することとします。

*「法に基づく環境影響評価と同等の技術レベル」とは

「ダム事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」（平成十年六月十二日厚生省・農林水産省・通商産業省・建設省令第一号）の第六条（環境影響評価の項目の選定）に記載されている、対象ダム事業に伴う影響を受けるおそれがあるとされる環境要素と同等の項目について影響評価を実施する。

木曽川水系連絡導水路環境検討会

連絡導水路に関する環境調査は、環境検討会における審議を踏まえて実施中であり、今後の環境影響検討に関しても、引き続き本検討会で審議していただきながら実施する。

◆設立目的

検討会は、木曽川水系連絡導水路事業の実施に際し、関係地域における水環境や生物生息生育環境等に係わる現況の把握、影響と予測の評価について審議し、事業の適切な実施に資することを目的とします

◆環境検討会委員名簿

(五十音順(座長を除く)・敬称略)

氏名		所属	専門分野
座 長	藤田 裕一郎	岐阜大学 流域圏科学研究センター 教授	河川
委 員	小笠原 昭夫	名古屋学芸大学 短期大学部 非常勤講師	鳥類
	梶浦 敬一	ぎふ哺乳動物研究会	哺乳類、 爬虫類・両生類
	駒田 格知	名古屋女子大学 家政学部 教授	魚類、底生動物
	西條 好迪	岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授	植物
	佐藤 健	岐阜大学 工学部 教授	地質・地下水
	関口 秀夫 ^{※1}	三重大学 生物資源学研究科 招へい教授	底生動物
	野平 照雄	自然学総合研究所 研究員	陸上昆虫類
	松尾 直規	中部大学 工学部 教授	水質

※1. 第3回検討会からの委員

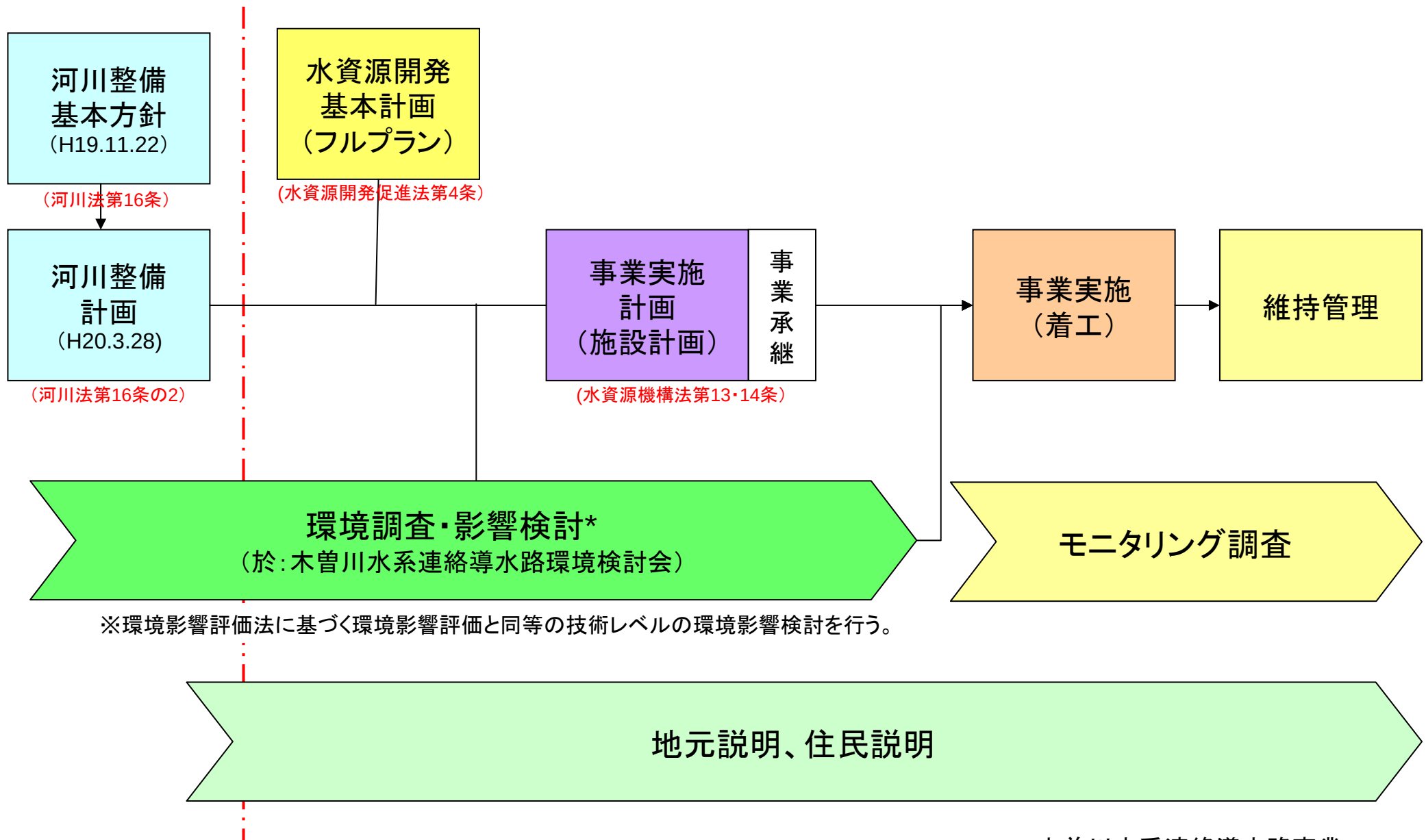
木曽川水系連絡導水路環境検討会

◆開催状況

回数	開催日	主な議事内容
第1回	H18. 3. 6	事業方針の説明、環境検討の項目選定及び調査地域(上流施設)の設定。 【主な指導・助言の内容】 ・放水箇所混合状況を確認すべき。 ・魚類等の迷入による交雑が懸念される。
第2回	H19. 3. 9	文献、秋季調査結果及び環境影響検討の概要。 【主な指導・助言の内容】 ・工事中の大気環境、周辺騒音等についても検討すべき。 ・放水箇所混合状況を確認すべき。 ・事業進捗段階に応じた地下水流動系について3次元解析を行なうべき。 ・生息が確認されている希少猛禽類の行動圏を把握すべき。
第3回	H19. 12. 13	調査結果、環境影響検討の概要、調査地域(下流施設)設定。 【主な指導・助言の内容】 ・地下水のシミュレーションでは、ボーリングの地点数を増やして精度を上げるべき ・水質の調査計画は、渇水期に近い状況を想定して実施すること。 ・揖斐川、長良川から外来種が迷入するのではないか。
第4回	H20. 4. 24	調査の結果報告、今後の計画検討。 【主な指導・助言の内容】 ・予測・評価地域は全体を見据えた中で更に、改変する地域を集中的に実施すること。 ・水質シミュレーションの妥当性確認のため、実績値の再現性について確認すること。 ・地下水シミュレーションは、近傍の地下水データを収集、補完することが必要。 ・鳥類はサシバ、夜鳥の確認もすること。 ・渇水時の下流水質データは、下げ潮だけでなく上げ潮も実施すること。

木曽川水系連絡導水路事業の今後の進め方

H20.6.1現在



参考資料

①環境影響検討の項目

環境影響検討の項目

影響要因の区分 環境要素の区分			工事の実施		土地又は工作物の存在及び供用		
			取水施設・導水路 トンネル等の工事	建設発生土の 処理の工事	取水施設 ・導水路等の存在	取水施設 ・導水路等の供用	建設発生土 処理場の跡地の存在
大気環境	大気質	粉じん等	○				
	騒音	騒音	○				
	振動	振動	○				
水環境	水質	土砂による水の濁	○			○	
		水温				○	
		富栄養化				○	
		水素イオン濃度	○			○	
	地下水の水質及び水位	地下水の水位	○		○		
土壌に係る環境 その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質			○		○
動物	重要な種及び注目すべき生息地		○		○		
植物	重要な種及び群落		○		○		
生態系	地域を特徴づける生態系		○		○		
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観				○		○
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場		○		○		
廃棄物等	建設工事に伴う副産物		○				

○は、環境影響検討の項目として選定する項目を示す。

生態系では、迷入(特定外来生物の拡散を含む)についても検討する。

アユは、木曽三川を特徴づける代表的な種として、動物で取り扱う。

環境影響検討の項目については、今後の検討により変更する可能性がある。

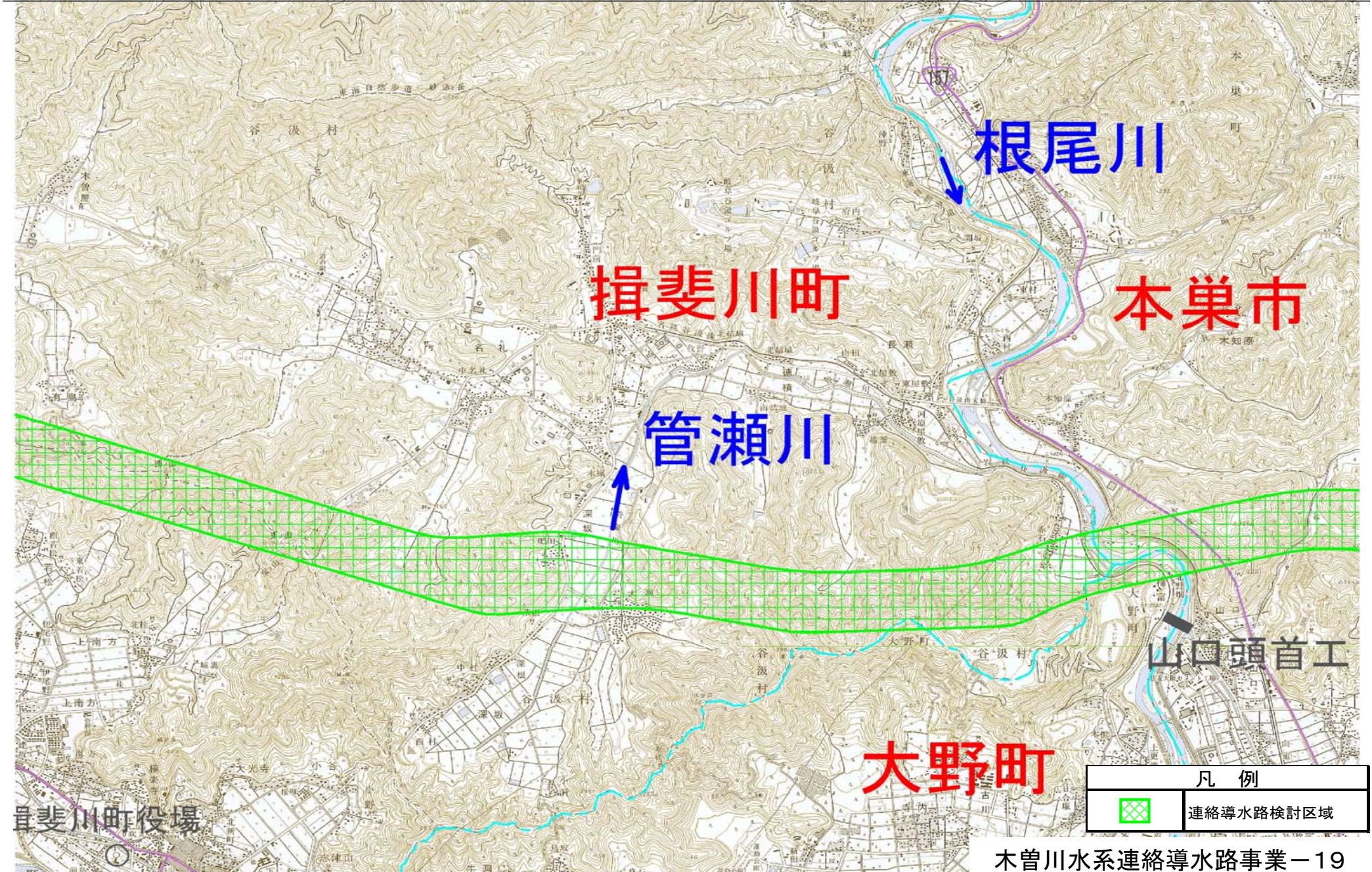
参考資料

②上流施設検討区域図(市町別)

導水路(上流施設)検討区域(揖斐川町周辺) 1



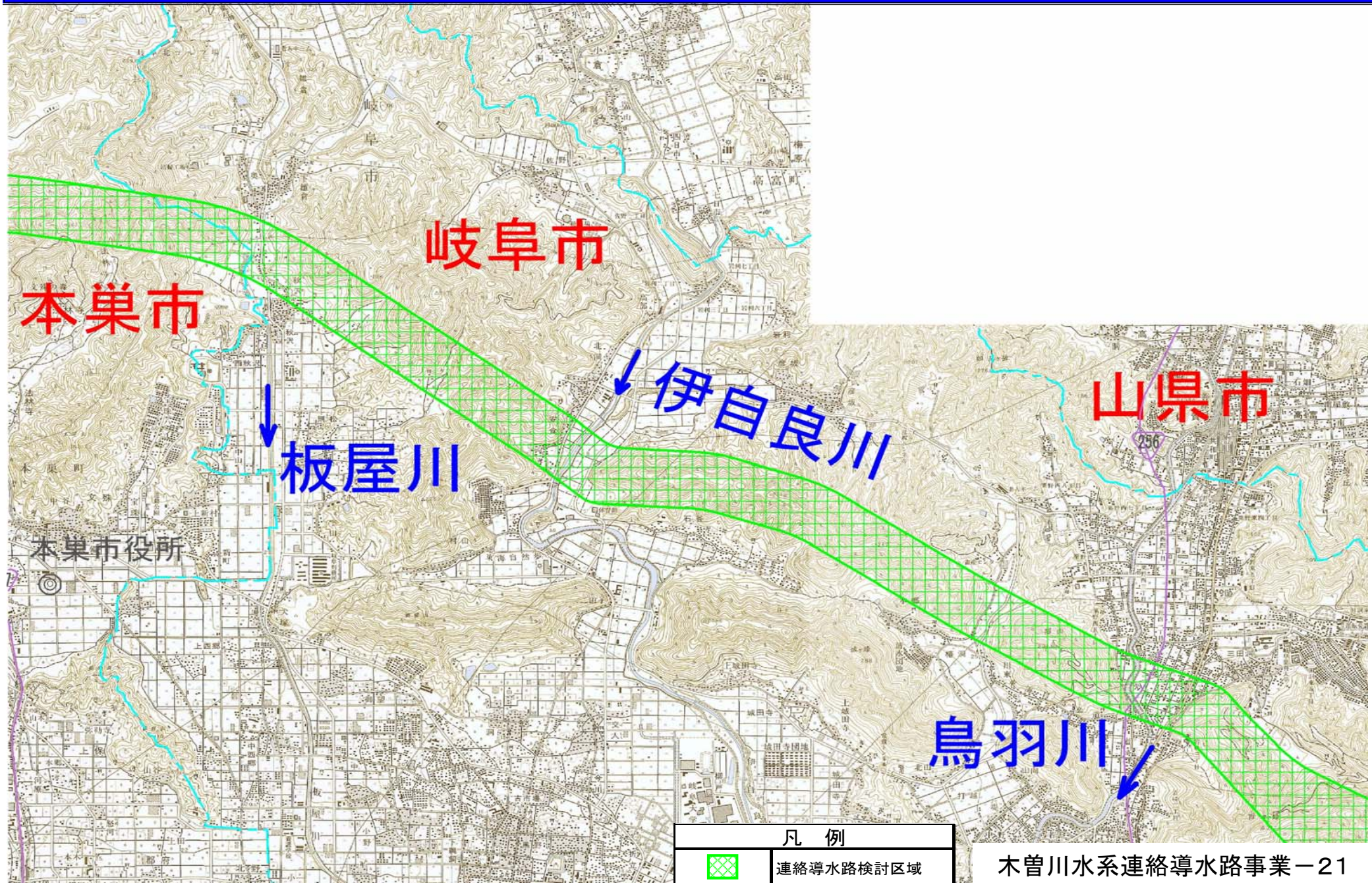
導水路(上流施設)検討区域(揖斐川町周辺)2



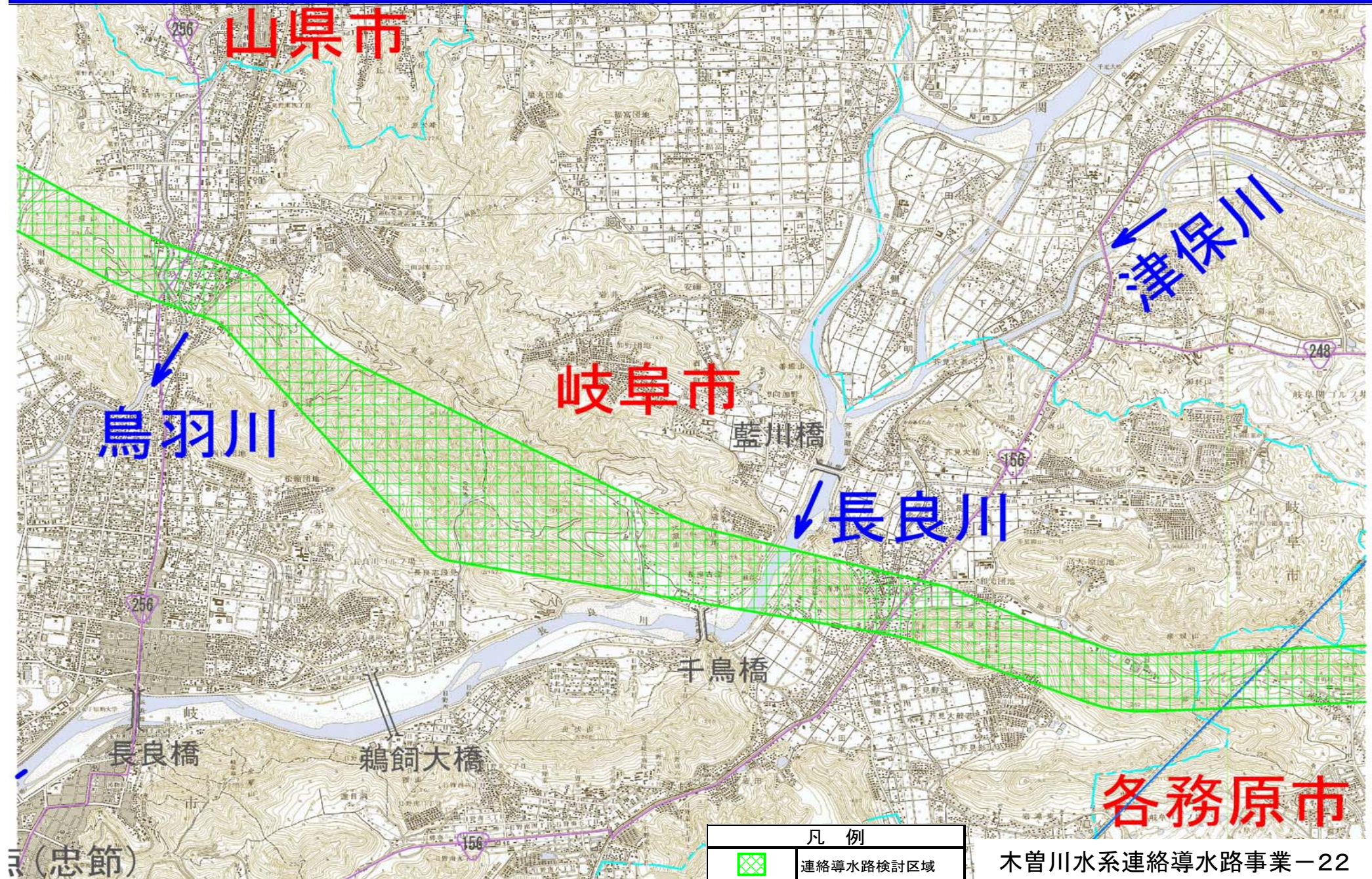
導水路(上流施設)検討区域(大野町、本巢市周辺)



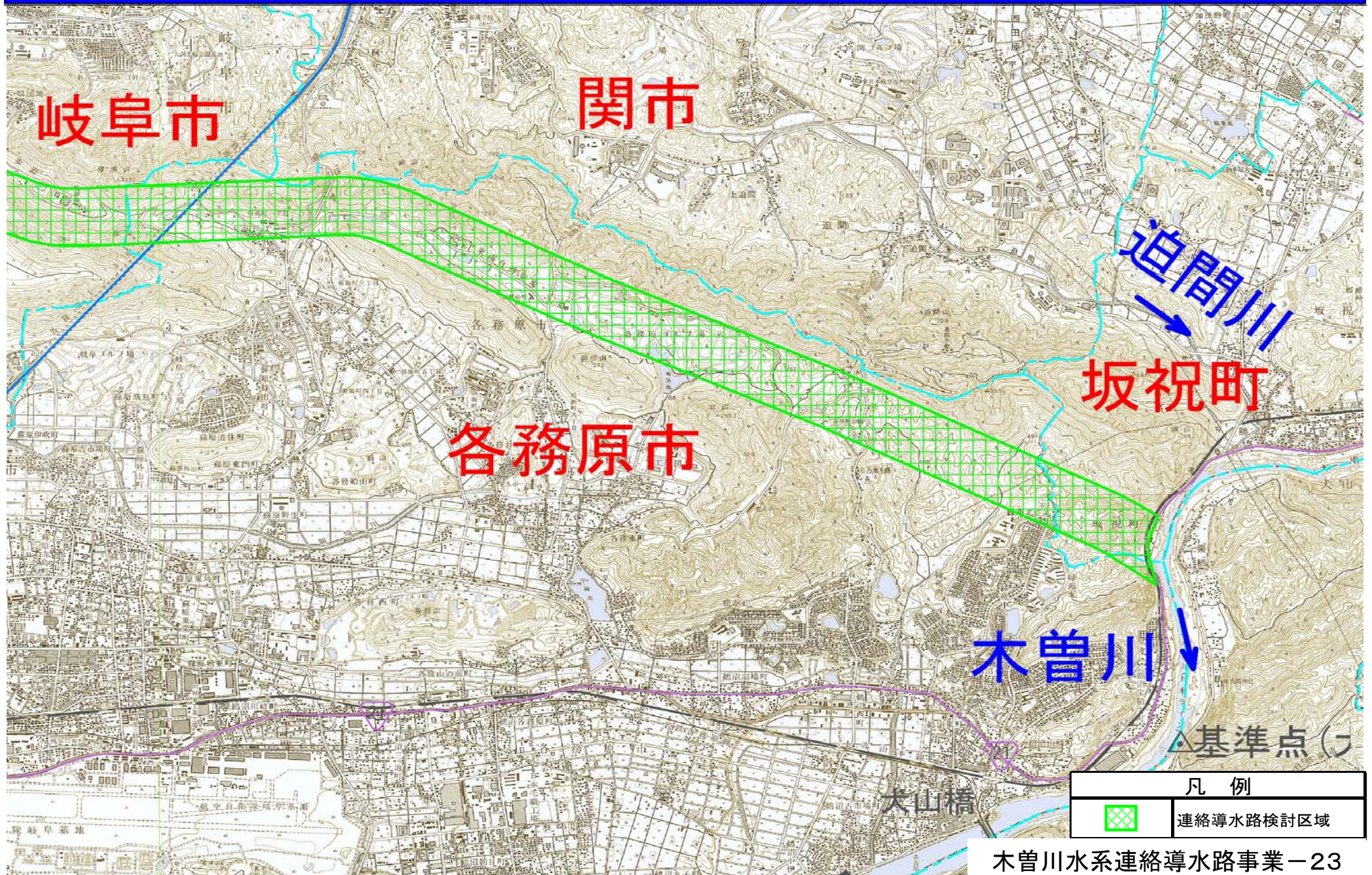
導水路(上流施設)検討区域(岐阜市周辺) 1



導水路(上流施設)検討区域(岐阜市周辺)2



導水路(上流施設)検討区域(各務原市、坂祝町周辺)



河川外来種対策について

特定外来種マップ (H20.3.7公表)

オオブサモ

オオハンゴンソウ

ウシガエル

木曽三川の特定外来種マップ

オオキンケイギク

ボタンウキクサ

カダヤシ

国土交通省中部地方整備局

木曽川上流河川事務所

<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/>

木曽川下流河川事務所

<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/>

ブルーギル

オオカワデシヤ

アレチウリ

平成20年3月

特定外来種マップの見かた

○外来生物法で指定された特定外来生物については、種名と確認位置を記述



木曽三川の外来種の進入状況等について

- ・現在までに木曽三川の直轄管理
区間で確認されている外来種は
336種、うち特定外来種は**13種**
- ・木曽川では**247種**、うち特定外来
種は**10種**
- ・長良川では**257種**、うち特定外来
種は**13種**
- ・揖斐川では**262種**、うち特定外来
種は**11種**

確認されている特定外来種一覧

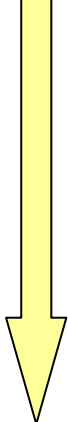
分類	種名
魚類	カダヤシ
	ブルーギル
	オオクチバス
底生動物	カワヒバリガイ
植物	オオキンケイギク
	アレチウリ
	オオフサモ
	(オオハンゴウソウ)
	オオカワデシャ
	(ボタンウキクサ)
両生類	ウシガエル
哺乳類	ヌートリア
	アライグマ

注：()は近年の調査では確認されていない種

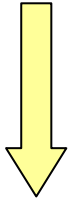
外来種対策の基本的な流れ（案）

※現在時点修正中

特定外来種マップの公表（木曽川上・下流河川事務所）

- 
- ・近年の水辺の国勢調査データを基に特定外来種マップを作成しました。
 - ・木曽三川には多くの外来種が侵入してきており、地域の方々等と連携した対策が必要であるということを多くの方に知っていただくために公表しました。（記者発表平成20年3月7日）
- ※ホームページへのアップ（木曽上・下）
- ・事務所のホームページで情報を公開しました。（記者発表と同日）
 - ・地域の方々等から外来種に関する情報をお寄せいただき、今後も内容を充実させていきます。

検討会の設置（NPO等との連携）

- 
- ・NPO、漁協、学識者等を含めた外来種検討会(仮称)を設置し、外来種の侵入状況等の情報共有をするとともに、対策の方法や優先度、連携・分担等について検討します。

外来種対策（地域の方々等との連携）

- ・検討会の結果を受けて、広く地域住民等の協力いただきながら対策を行います。また、対策後の状況をモニタリングし、その結果についても検討会にフィードバックし、今後の適正な外来種対策に繋げていきます。
- ・平成20年度は、試験的な取り組みを拡大したいと考えています。

木曽三川の外来種関係新聞報道

朝日新聞平成19年3月13日

木曽三川

畜産系への悪影響が懸念される特定外来種13種を以て、木曽三川とその周辺で確認されていることが、国土交通省中部地方整備局の調査でわかった。同整備局は確認地帯を盛り込んだ地図をウェブ上で作り、一般に公表し、駆除や抜放しに生きたい考えだ。環境問題に取り組むNPOや地協、専門家らでつくる検討会も今夏までに立ち上げ、対策を探る方針。

（二階堂 寛）

特定外来種、中部整備局が確認
地図公表、対策探る



調は90年以降、木曾川、長良川、揖斐川やその支流、河川敷などで実施してきた。魚類と底生動物、植物、陸上昆虫類、両生類、爬虫類、哺乳類、鳥類の計336種の外来種を確認し、このうち13種が特定外来種だった。



例へば、三川の川沿いは、外來魚のブル
ーギルやオオクチバスを
確認。流れが緩やかな下
流では、メダカに似たカ
ダヤシが見られる。植
物では、果実に鋭いトゲ
があるウリ科のアレチウ
リが上流を中心に広がっ
ている。岐阜県各務原市
の国営木曽川公園「かさ
だた広場」周辺は、キ
ウ科のオオキキイチク
が群生。06年から年2
回、除草をする。

同整備局木曽上流河
川事務所の松原幸幸・河
川環境課長は、誰かが持

ち込んでいた。また、よ
うやくは在産種より
強く、勢力が押ししてい
くと分析する。木曽三
川で清濁活動などに取
組むNPO法人「長良川
環境レジャー協会」の
友保有起理事長は「ブル
ーギルやオオクチバス
が、本流より支流に上っ
てくる場合がある。ただ、
生態域がどの程度がっ
たりしているのか、弊害出
ているのか、実態は分て
はかめていない」と、ど
な対策かとれるのかと聞
き、「連携したい」と願
う。

同整備局はさらに、支

那をめぐり、川沿いの地
に01・05年の調査を見
つけた特定外来魚11種
の離脱地点を落とさん
だ。木曽川上流河川事務
所のホームページに
www.cdr.mlit.go.jp/o-jikishin/Pc公開
松原課長は「外来種の
侵入状況の情報を共有
し、対策を練りたい。左
だしらみづしと聞い
たのではいいため、調査
は不発。地域の方々から
情報も寄せてもらいた
い」と話し、今後とも資

写真はいずれも中
（部）地整備局提供



(写真はいずれも中部地方整備局提供)

マップ製作、HP公開

国交省
河川事務所

国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所は、木曽川、長良川、揖斐川で確認されている特定外来種の分布状況をまとめたマップを作製し、七日からホームページ上で公開した。木曽川では、十三種の特定外来種が確認されている。国交省直轄管理の河川で特定外来種に特化したマ

ツプを作製するには全国的にも珍しいという。

木曾三川で確認された
特定外来種は、ブルーギ
ルやオオクチバス、オオ
キンケイギク、アレチウ

来種の
聞本社

りなど十三種。
マップには、同省が二

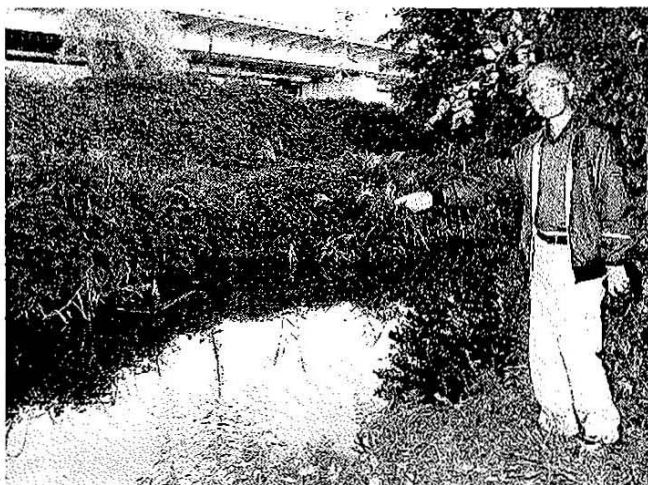
ぐらやコロナなども掲載している。

木曽川水系河川整備計画策定に向けて地域住民と行っている懇談会でも、住民側から在来種の生態への影響を危ぐる意見が出ているが、河川全体で外来種駆除の抜本的な対策を取るのは、コスト面などからも難しいのが現状という。木曽川上流河川事務所ではマツ

ブルースや
ブラックバ
ス
民間団体が調査

岐阜市

特定外来種のブラックバスとブルーギルが確認された長良川河川敷内の水路―岐阜市長良雄総



岐阜市長良雄総、長良川右岸の河川敷内にある水路で、特定外来種となっているブラックバス、ブルーギルを、民間団体「木曽三川フォーラム」が確認した。国土交通省による河川水辺の国勢調査でも、長良川での生息は把握されているが、同フォーラムでは「岐阜県を象徴する長良川を、市民の力で外来魚から守っていかねければ」と危機感を募らせている。

調査したのは、同フォークラム長良川分科会。長良川鵜飼が行われるエリアに近い、鵜飼い大橋すぐ下の水路で魚をすくい上げてみたところ、小型のブラックバスとブルーギルがいた。

同省も近年の国勢調査で、同市の鏡島大橋付近の長良川で、ブラックバスの一種オクチバスと、ブルーギルを確認。木曽川上流河川事務所は「特定の場所が必要がある」と訴えている。

調査結果は、同市学園町の未来会館で二日に

「それは対策を講じなければいけない」とするが、湖とは違い流れのある河川で具体的な対策を取るのには難しさがある。

調査に参加した同フォークラムの小野賢悟副会長（左）は「長良川は豊富な淡水魚がいる自然の宝庫だが、既に外来魚が侵入している。市民も巻き込んで対策を考えなければ」と訴えている。

特定外来種（材キンケヅク）の駆除が課題

調査場所等

国営木曽三川公園 かさだ広場（木曽川：岐阜県各務原市）

植生調査：3箇所（21m×30m）、出現種の高さ・被度

材キンケヅク調査：10箇所（2×2m）、生育・開花状況、種子数等

調査年度

平成18～19年度：植生調査、材キンケヅク調査

平成20年度：効率的・効果的な管理方法（駆除方法）の検討



今後の予定【効率的・効果的駆除方法の検討】

今後の予定

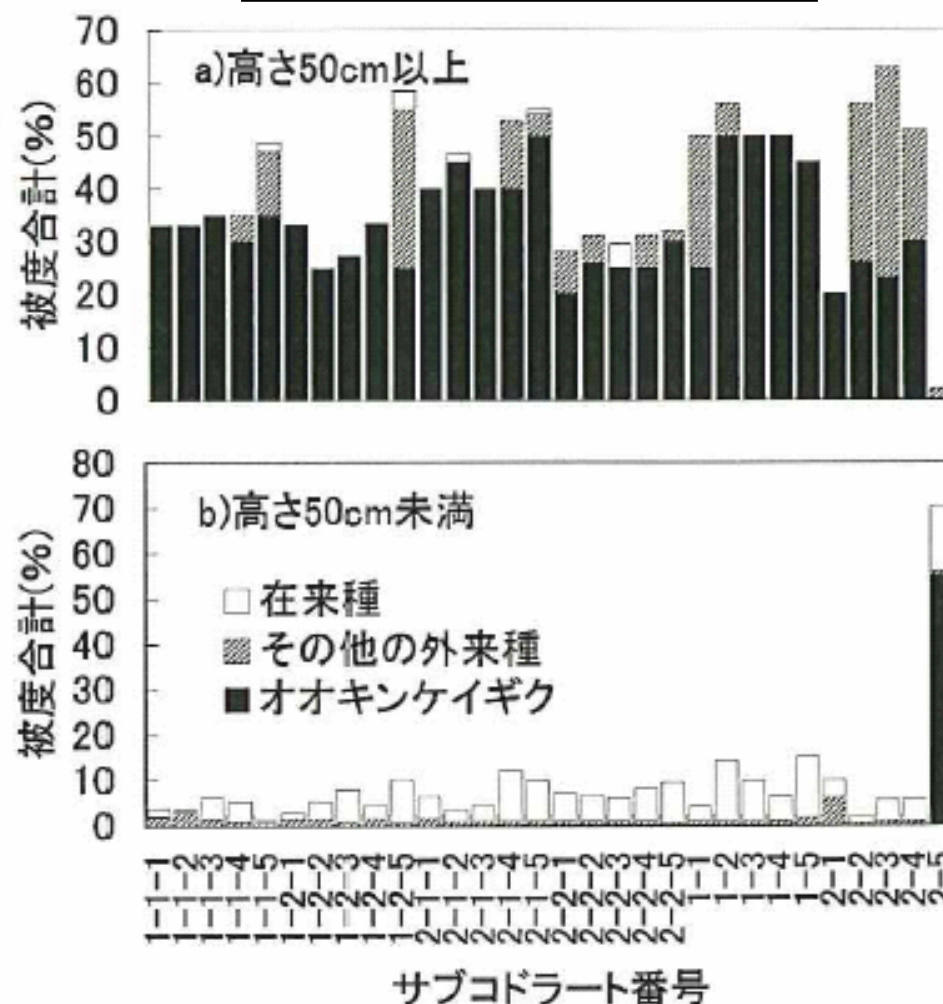
今年度は、調査・検討期間【3年】の最終年度となるため、材ヅケの効率的・効果的な駆除方法等について検討する予定

植生調査結果

調査区番号	A	B	C
高さ(平均)cm	0.7	0.7	0.7
植被率(平均)%	40.6	46.2	58.2
外来種の被度平均割合(%)	89.8	84.4	87.9
外来種の種数平均割合(%)	53.4	43.0	47.5
種数(平均)	7.4	8.2	8.2
オオキンケイギク	30.9	34.7	37.4
オオフタバムグラ	0.5	0.5	0.5
シバ	2.1	3.5	3.7
カワラサイコ	1.3	1.1	1.4
ハナヌカススキ	0.4	0.5	0.5
メドハギ	0.7	1.4	1.2
シナダレスズメガヤ	5.0	3.8	12.9
カナビキソウ	0.1	0.4	0.2
アオスゲ	0.1	0.2	0.3
キバナノカワラマツバ	0.1	0.2	0.2
スズメノヤリ	・	0.1	0.2
ミノボロ	0.1	0.2	・
メリケンカルカヤ	0.2	・	・
ユリ科の一種	・	・	0.1
エノキ	0.0	・	・
スズメノヒエ	・	0.1	・
ハルジオン	・	・	0.1
ムシトリナデシコ	・	・	0.0
チガヤ	・	・	0.2
ウシノケグサ属の一種	0.1	・	・

注: 表中の各種の数値は平均被度%(n=10)。下線は外来種を示す。

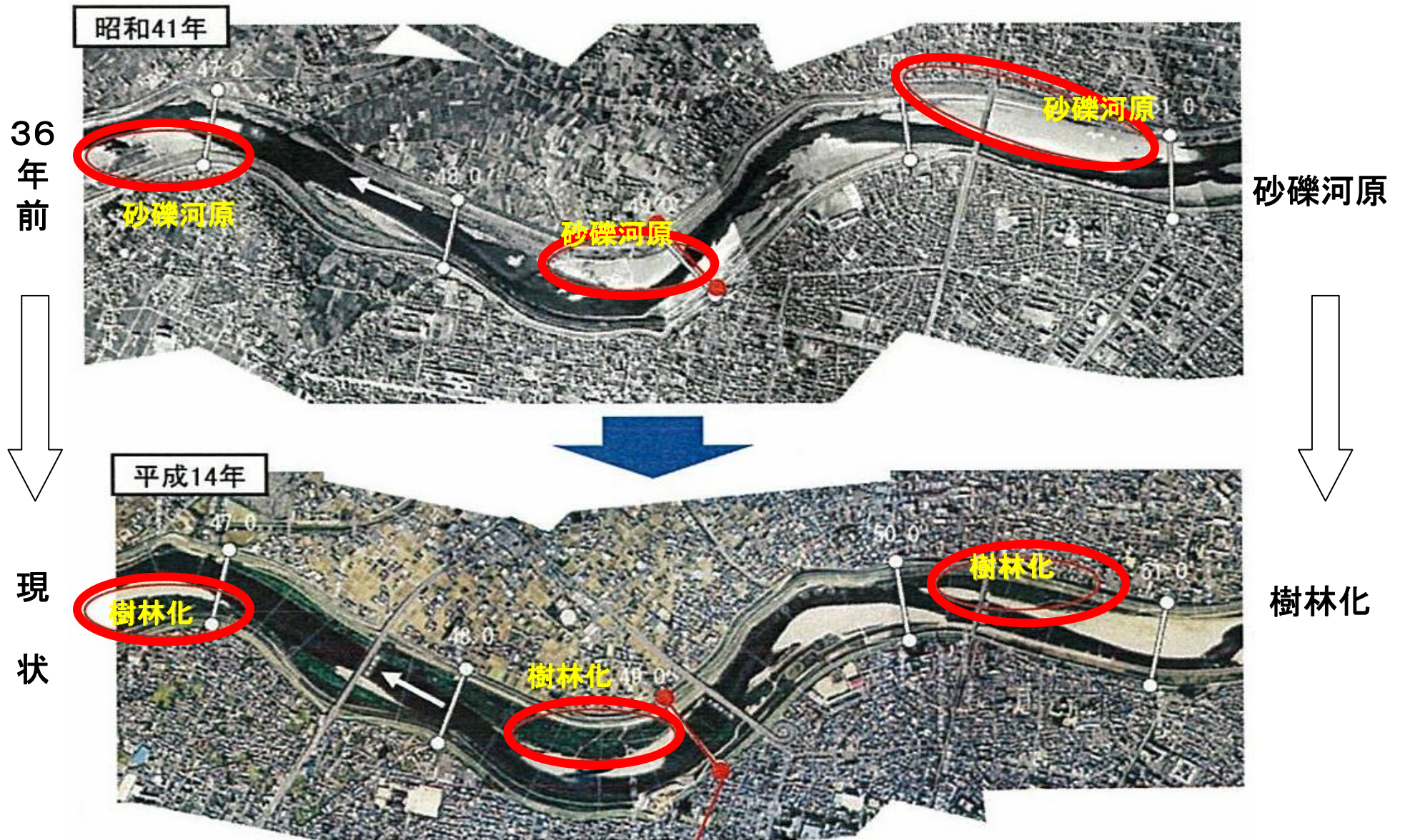
オオキンケイギク調査結果



長良川 樹木伐開について

河原の変遷

長良川の例



樹林化による問題点

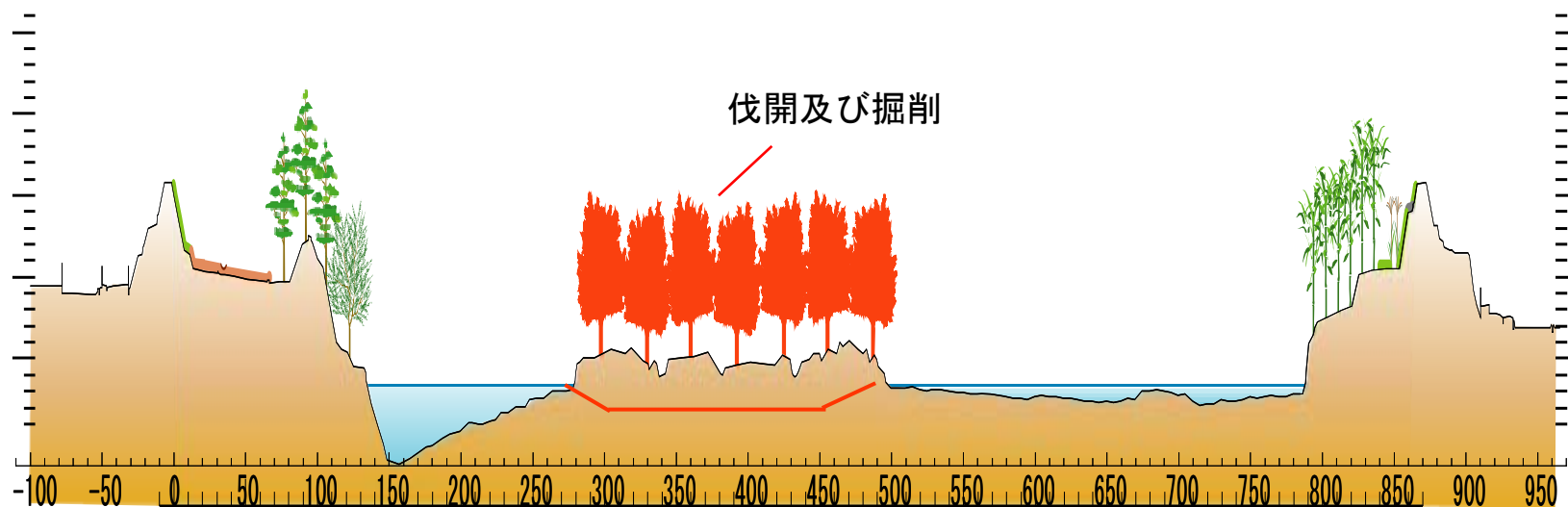
支川排水の阻害の例



流木やゴミが引っかかり、流れの阻害となる例



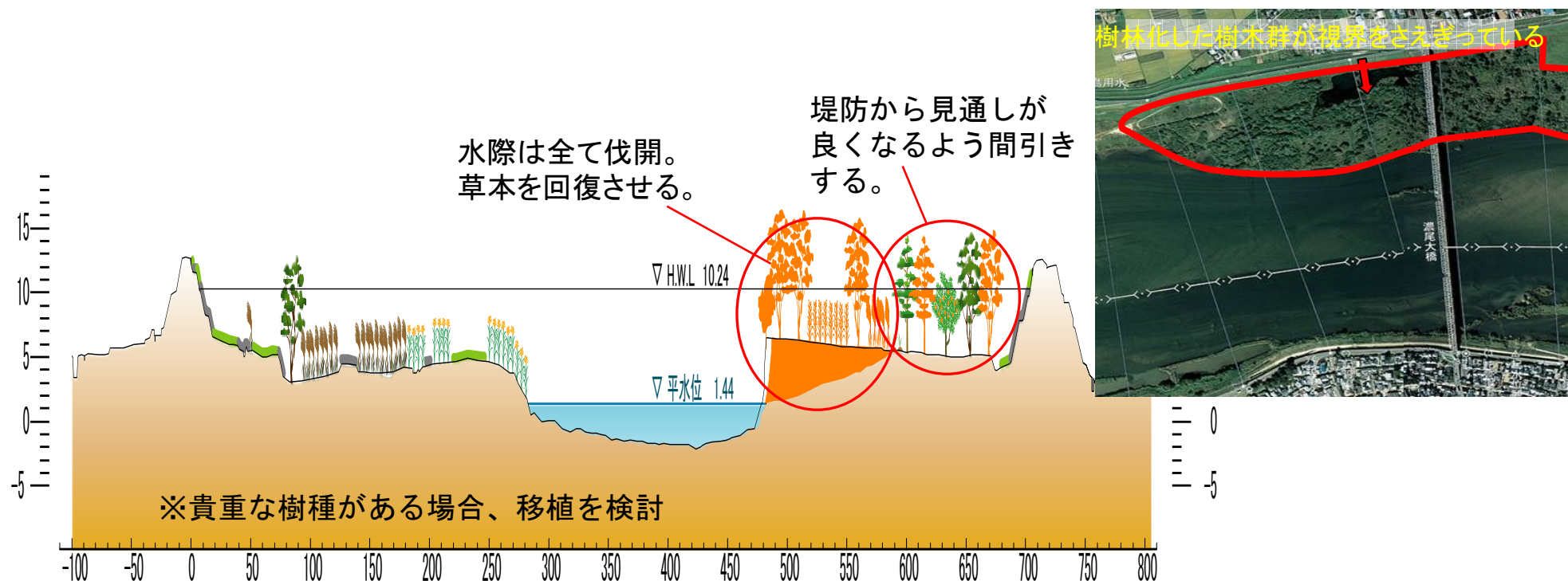
樹木伐開案①



(洗掘・浸食防止)

中州の発達・樹林化により滞筋が固定化され深掘れなどにより護岸等の管理施設に影響がある箇所では、中州に生育する樹木を伐開するとともに、中州部分の盤下げにより滞筋を河川中央に寄せることで、水際線に多様な湿地環境の形成を図る。

樹木伐開案②

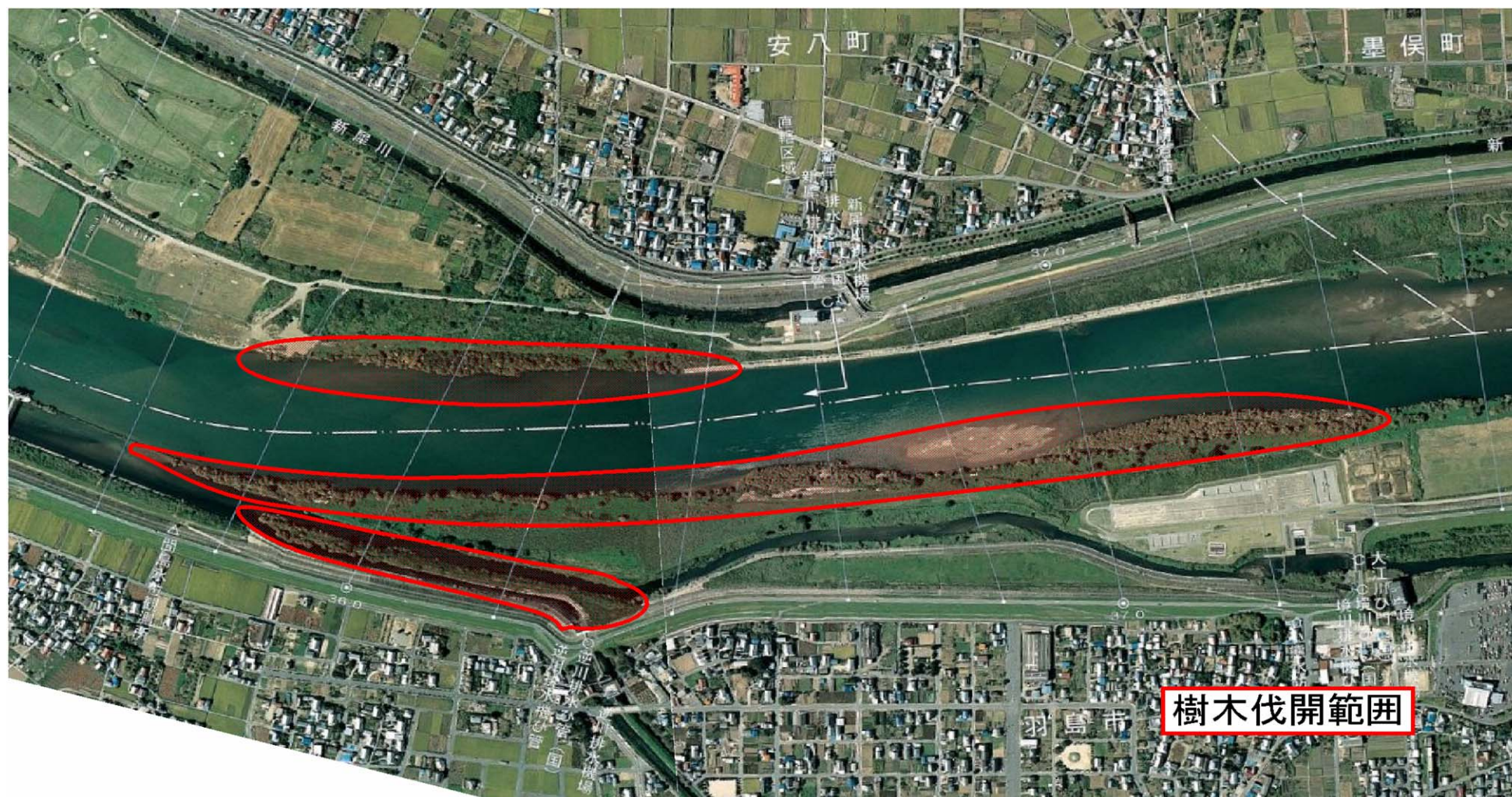


(河川巡視、CCTV、犯罪対策)

樹木が繁茂し、河川巡視の際の堤防上からの視程障害やCCTV等の視界をさえぎる箇所について、生息環境へ影響が少ない範囲で樹木を伐開する。なお、伐開に際しては、再び樹木が生育しないよう可能な限り盤下げを行い、水際の草地の回復などを検討する。

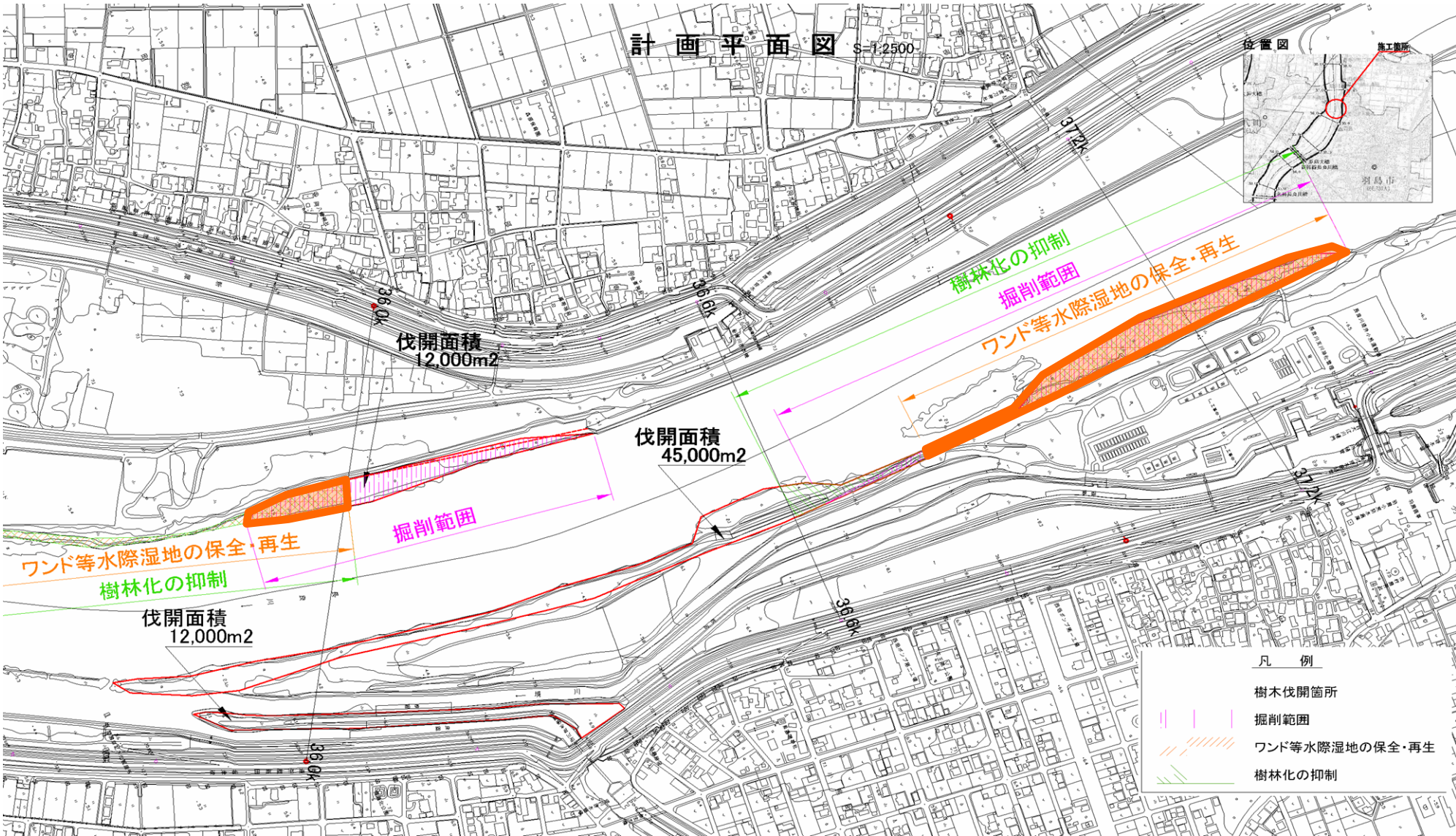
樹木管理

平成20年度 長良川樹木伐開予定箇所 写真



樹木管理

平成20年度 長良川樹木伐開予定箇所 位置図



樹木伐開の進め方

基本的な考え方の提案

- ・事務所のホームページ等で伐開計画概要、伐開箇所及び伐開方法(案)等の情報を公開



地域の方々の意見を聴取

- ・NPO、漁協、野鳥の会等へのヒアリング及び地域の方々から意見をいただく



樹木伐開

- ・上記の意見を参考に樹木伐開計画を修正し、伐開を実施する

ご意見用紙

今日は、木曽三川ふれあいセミナーにご参加いただきましてありがとうございました。

今回初めてこのようなセミナーを開催させていただきましたが、いかがでしたか。

木曽三川の川づくりに関してご意見がある方は、この用紙にご記入いただき会場のご意見箱へ入れてください。

また今後も引き続き、このようなセミナーを開催したいと考えていますので、改善すべき点などございましたらあわせてご意見いただければ幸いです。

1. 木曽三川の川づくりに関して、どのようなことでも結構ですので、自由にご意見をご記入下さい。

[illegible]

2. 木曽三川ふれあいセミナーの運営などで改善する点などありましたら、自由にご意見を記入下さい。

ご協力ありがとうございました。